

生活不活発病を防ぐ

「食の見守りネットワーク」構築事業

事後評価報告書

【実行団体】 あそびばキッチン・コンソーシアム

【提出日】 2025年2月28日

【資金分配団体】

（幹事団体）公益財団法人南砺幸せ未来基金

（構成団体）公益財団法人東近江三方よし基金・公益財団法人うんなんコミュニティ財団

【事業名】 社会的困難者を支えるローカルアクション

【事業の種類】 草の根活動支援事業

1. 目次

=====	
2. 報告書要約	7-1. アウトカムの達成度
3. 基本情報	7-2. 波及効果(想定外、波及的・副次的効果)
4. 事業概要	7-3. 出口戦略・事業の持続化に向けた戦略の成果
5. 事後評価実施概要	7-4. 事業の効率性
(1) 評価の目的	8. 成功要因・課題
(2) 評価結果の活用	9. 結論
(3) 評価の実施体制	9-1. 社会的インパクト評価の構成要素別自己評価
(4) 評価項目と測定方法	9-2. 自己評価の判断根拠について
6. 事業の実績	10. 本事業で取り扱った活動を発展させるための提言
6-1. インプット	11. 事業からの学び・知見・教訓
6-2. 活動とアウトプットの実績	12. 資料（別添）
7. アウトカムの分析	
=====	

2. 報告書要約

課題と目的

あそびばキッチンには、「食を通じて人々が集まり、楽しく交流し、地域とつながる場を作ること」をキーワードに、食を通じて高齢者のフレイル予防と生活の質向上を目指している。生活不活発病の予防という社会的課題に対し、高齢者の食や健康を通じて地域とのつながりを作り出すことを目指し、3年間を通じて移動販売や栄養講座を開催しながら、地域住民の参加を促す場作りや食の支援を行ってきた。

具体的な活動と成果

活動の初期段階では、あそびばキッチンの料理教室や移動販売を通じて、地域住民との接点を作り、食を通じて心の栄養を提供することを目指した。移動販売の取り組みにおいては、食事を通じて地域の高齢者が社会との接点を持ち、孤立感を軽減する場が提供され、イベントで食を囲みながら地域住民との新たな交流の場が生まれた。さらに、料理教室や地域食堂といった取り組みを通じて、健康的で美味しい食事が提供され、地域の多くの人々が交流を楽しむ場となった。活動の中で、定年退職後の男性が奮起した特産品開発の動きが生まれたり、自宅を活用し認知症の心配があっても気軽に立ち寄れる高齢者の談話の場がオープンするなど、「食」をキーワードに地区を超えた料理のコラボ、人と人とのつながりが生まれた。

中長期ビジョンと事業年度のアウトカム

本事業は、あくまで「一過性の活動」とするのではなく、地域全体を巻き込みながら持続可能な形で発展させることを目指している。今後の展開に向けては、他の団体や地域住民との連携をさらに強化し、活動の範囲を広げる必要がある。また、あそびばキッチンの活動が単独で進行するのではなく、地域資源を最大限に活用し、共同での事業推進が求められる。そのため、地域内外でのネットワーク作りや情報共有、そして活動の周知がますます重要になる。

アウトカム分析の結果

事業実施を通じて、高齢者支援のためのアウトリーチモデルとして一定の成果が得られた。しかし、依然として課題が残っており、特に医療関係者との協力やアウトリーチ活動の手法に関しては、さらなる改善が求められる。地域社会で孤立しがちな高齢者やフレイル予備軍に対して、新たな支援の形を提供しようとしても、その活動がどのように定着し、持続可能なものになるかが課題になる。特に、当初は地域の高齢者層へのアプローチが難しく、イベントへの参加者数が想定よりも少ないという現実直面していた。そんな中、食にまつわる場作りや移動販売の活動を通じて、地域内で一定の関心を集めるようになり、支援を受けた対象者の一部が新たな挑戦を始めるきっかけとなった。

今後の展望

あそびばキッチンの活動は、地域における新たな社会的つながりを生み出すとともに、食を通じた地域支援の重要性を再認識させるものとなった。この活動の背後には、地域住民との交流を基盤にした協力体制があり、さまざまな専門性を持つメンバーが力を合わせて取り組んできた。あそびばキッチンの活動を通じて地域の健康支援活動に、新たなつながりや支援のきっかけを作ることができたのではないかと考えている。より多くの高齢者層にリーチし、持続的な支援を行うため、今後も工夫を重ねていきたい。

3. 基本情報

【実行団体名】 あそびばキッチン・コンソーシアム
【団体概要】 生活不活発病が懸念される方に、栄養教室や食品の移動販売を通じて、各々の身体状況に適した食を選ぶ力を養い、食生活を見守る活動の実施
【実行団体事業名】 生活不活発病を防ぐ「食の見守りネットワーク」構築事業
【資金分配団体名】 公益財団法人うんなんコミュニティ財団
【資金分配団体名事業名】 社会的困難者を支えるローカルアクション
【実施期間】 2022/4/21～2025/2/28
【対象地域】 島根県雲南市・奥出雲町

メンバー一覧



※本報告書にて使用する用語（人物・地区名や地域団体など固有名詞）について

地域自主組織	概ね小学校区などの単位での住民主体による新たな住民組織のこと
小さな拠点・小さな拠点づくり	中山間地域において、地域運営の担い手不足が深刻化し、地域コミュニティの維持、買い物など日常生活に必要な機能・サービスの確保が困難になっている中で、公民館エリア（旧小学校区）を基本とし、住民主体の議論を通じて地域運営に取り組んでいくこと。
交流センター	雲南市の小学校区を目安に設置された、地域づくりや地域福祉も含めた多様な活動を展開できる地域の活動拠点。これまで生涯学習や社会教育事業を主体に取り組んできた「公民館」を、「交流センター」と改称し、協働のまちづくりに向けて取り組んでいる。

温泉地区	雲南市の南東部、奥出雲町と接する地区。名湯「出雲湯村温泉」が湧き、上流は尾原ダムとダム湖の「さくらおろち湖」がある。
温泉キャンパス	不登校児支援を目的に NPO 法人カタリバが旧・温泉小学校を拠点に運営する施設
青空サロン	温泉地区で開催されるサロン
えんがわサロン	温泉地区の各住民の自宅で開催するサロン
三新塔（さんしんと う）地区	JR 木次駅を中心とした旧市街地区。「三日市・新町・塔の村」の 3 つの地区を合わせて「三新塔」と呼んでいる。
茶のん場えびす	三新塔地区で実施される、地域の人のつながりを絶やさないため、ボランティアが手作りしたお菓子やおかずを食べて語らうサロン活動の取り組み。
げんき会	三新塔地区の 70 歳以上の男性が毎月 15 日に集う場。学びの場や軽スポーツなどを通じて交流している。
雲南市その他	
三刀屋（みとや）地区	斐伊川支流の三刀屋川沿いに位置し、江戸時代には宿場町として栄えた地域。インターチェンジ周辺を中心に商業が発展する一方、旧市街地の再生にも取り組んでいる。
CNC	雲南市に本社を置くコミュニティナースカンパニー株式会社の略称。地域住民の健康づくりやコミュニティ活動を支援する医療従事者「コミュニティナース」の育成・普及事業を展開している。
おせっかい会議	CNC 社が手掛ける、健康的なまちづくりを目指すための取り組み。地域コミュニティ組織のリーダー、行政機関の担当者、まちを良くしたいと思う個人が立場を超えて集まり、対話、課題共有、協働による解決としての「おせっかい」を行う地域に根ざした会議体を開催している。
認知症フレンドリー 絆や	雲南市下熊谷地区で介護福祉士の T さんが自宅を改装して認知症相談のためにオープンしている事業所。
くまっこ喫茶	認知症フレンドリー絆やさんが実施している交流カフェ
あじさいの会	雲南市大東地区で開催される太極拳教室と健康づくりの場
”年金たまご”の日	雲南市の商業施設「マルシェリーズ」が実施する隔月のイベント。年金支給日に卵をプレゼントし、ブース相談やシニア世代相互の交流ができるイベント。
三沢（みざわ）地区	奥出雲町の旧仁多地域の 1 地区。地域づくりの取り組みが盛んで注目を集める。古民家シェアオフィス「みらいと」、古民家イベントスペース「金吉屋」、古民家ゲストハウス「SlowHouse」、JA の跡地を再生した「ともにマーケット」、地域食堂「ともに食堂」など若者主体の様々な取り組みが行われている。

移動販売・ともに号	三沢地区の NPO 法人「ともに」が運営する無店舗型商品販売の取り組み。販売車で集落を巡回し、買い物困難な人向けに物資の販売や健康相談などを行っている。
奥出雲町その他	
島根リハビリテーション学院	奥出雲にある、4年制の理学療法士・作業療法士養成専門学校。三沢地区とも連携し、地域課題解決型フィールドワークの授業も実施している。
パスカル	島根リハビリテーション学院に併設される学生食堂で、2024年より NPO 法人ともにが指定管理者として運営している。隣接する奥出雲病院の利用者や一般の町民などにも広く利用されている。
生涯現役講座（男の生涯現役道場・男塾）	奥出雲町社会福祉協議会および、運営委員の落合が企画する健康講座。サロンや通常の健康講座に参加しづらいシニア男性向けに開催している取り組み。
フレイル予防塾	奥出雲町社会福祉協議会が実施するフレイル予防の取り組み。健康体操や健康講座などを行っている。
食の起業塾	あそびばキッチンで主催した、副業支援の場。食に関してなにか取り組みたい人向けに、簡単なビジネスプラン作りをしてもらう試み。

4. 事業概要

中山間地域に暮らす高齢者を取り巻く社会環境の変化（独居増・移動困難増・買い物難民増等）は、高齢者の交流機会の減少を生み、このことは「生活不活発病（社会的、身体的、心理的に虚弱の状態）」を引き起こす一因であると考えられている。本事業では、「食」というキーワードに着目し、高齢者の地域における交流や活動機会を増やす活動を地域団体や多様な人材と協働して行う。また、地域内に潜在する生活不活発病やその予備軍の発見を、移動販売等の機会を通じて行う。これらの施策により、雲南市・奥出雲町の高齢者が地域で孤立せず、生きがいや楽しみを感じながら安心して暮らせる地域づくりに寄与する。

【事業によって解決を目指す社会課題】

- ・食卓の孤立化、個食化：世帯構造の少人数化、高齢者世帯における独居（日中独居も含む）の増加により、人目のない食事をする人が増えている。結果、偏食や不規則な食、栄養の偏りや食数の減少など、「孤立化」によって栄養バランスが悪くなり、虚弱の要因にもなっている。
- ・買い物機会の減少：商店の減少、地域交通のダイヤやルートの減少により、自分で運転できない高齢者は地域との接点を失い、繋がりがなくなること（社会的虚弱）から、心身の虚弱化と孤立化が進んでいる。
- ・地域における交流機会や買い物機会の減少：急速な高齢化に伴い、従来の地域交流拠点や商店が運営困難となったこと、また、交通手段の不足や体力の低下により、外出が困難となる高齢者が増加している。これらの要因により、住居が点在する中山間地域では、買い物や交流への参加が著しく制限され、高齢者の孤立や虚弱化が懸念される状況にある。こうした背景を踏まえると、移動販売車は、高齢者に必要な商品を提供するだけでなく、自然な交流の機会を創出する有効な手段であるといえる。しかしながら、中山間地域特有の事情から、移動販売業の経営状況は厳しい現状にあり、持続可能な経営モデルの確立が急務である。

【最終受益者、直接対象グループとその人数】

○直接的対象グループ

1. 雲南市・奥出雲町の高齢者のフレイル予防を支援する人および団体（以降、「活動支援者グループ」と呼称）
（人数）雲南市（39,000人）・奥出雲町（13,000人）
 2. 雲南市・奥出雲町の高齢者（重点地区：雲南市温泉地区と雲南市三新塔地区）
（人数）雲南市（14,422人）・奥出雲町（5,130人）
- 重点地区高齢者：温泉地区（239人）・雲南市三新塔地区（486人）

※直接対象グループ2は以下の①②を想定

- 【2-①】フレイルが懸念される高齢者
- 【2-②】閉じこもりがちでフレイルの高齢者

1年目～2年目 活動エリア

（雲南：木次地区/奥出雲：三沢地区）
▶惣菜作成・販売の拠点づくり
▶食の講座準備・開催
▶実態調査+事業モデルづくり など

3年目以降～展開エリア

（阿用地区/久野地区/塩田地区）
（田井地区/温泉地区/三沢地区）
▶移動販売の広域展開など
▶講座開催、惣菜販売の展開 など



○最終受益者

雲南市・奥出雲町に住む高齢者

- （人数）雲南市（14,422人）・奥出雲町（5,130人）
- 【2-①】フレイルが懸念される高齢者
 - 【2-②】閉じこもりがちでフレイルの高齢者

【事業の概要】

(1) 中長期アウトカム

事業終了時にできた「あそびばキッチン」の在宅高齢者フレイル予防モデル（短期アウトカム1+2+3）が、雲南市・奥出雲町の他の地区へ拡大し、地域で孤立せず生きがいや楽しみを感じながら安心して暮らしている在宅高齢者が増えている状態。

(2) 短期アウトカム

短期アウトカム	指標	初期値・初期状態	事後評価時の値・状態
1. 【活動支援グループの状況】 多様な人材が協働する場や活動が生まれ、専門職や医療関係者だけでなく、多様な市民による（インフォーマルな）高齢者支援のアウトリーチモデルが創出し始めている状態。	1, 協働活動の数と活動者数（温泉・三新塔） 2, 交流会の形態（三刀屋）	1, 0回・0人 2, 開催実績なし	1, 6回（温泉、三新塔：各3回）・60人 2, 定期的開催
2. 【直接対象グループ2-①の状況】 フレイルが懸念された高齢者が、（温泉地区・三新塔地区における、あそびばの活動と接点を持つことで）地域の担い手となり、生きがいや楽しみを感じながら地域で安心して暮らす人が増えている状態。	1, フレイルが懸念された高齢者が、活動支援グループ（専門職や医療、地域のインフォーマルな活動者、地域自主組織などの団体等）とつながった人数 2, 上記1の1つなりの客観的状态 3, 直接対象者の意欲の状態（ヒアリング）	1, 0人 2, あそびばメンバーとのつながりが無し 3, ヒアリング事例なし	1, 6人 2, フレイルが懸念された高齢者の存在が活動支援者グループで顕在化するとともに、地域の担い手として新たな活動に取り組み始めている状態。 3, 直接対象者の状態・意欲の状態が初期値から意欲の指標で向上している。
3. 【直接対象グループ2-②の状況】（温泉地区・三新塔地区における、あそびばの活動により）要介護の認定を受けた高齢者が、身体が虚弱化しても、生きがいや楽しみを感じながら地域で安心して暮らせる人が増えている。	1, つながりができ顕在化した直接対象者の人数 2, つながりができた直接対象者と医療者・支援者グループとの関係	1, 0人 2, 直接対象者と医療関係者とのつながりはある	1, 6人 2, （温泉地区・三新塔地区における、あそびばの活動により）専門職や医療関係者を通じて接点ももてるようになり、6サンプルが顕在化している。また、専門職・医療職以外の活動団体や支援者とつながっている状態。

(3) 活動概要

1-1 高齢者の社会的・身体的虚弱（フレイル）の予防に関する、地域活動状況の把握および生活ニーズに関する基礎調査（雲南市・奥出雲町）

- ①地域自主組織や地域団体等の高齢者の活動に関する課題・ニーズ把握
- ②地域団体等が開催する既存の高齢者対象のフレイル予防塾や各種教室の開催状況の調査
- ③雲南市・奥出雲町の移動販売空白地で移動販売のニーズ調査

1-2 高齢者の健康や食を支える多様な人材との交流機会や協働活動（雲南・奥出雲の高齢者の食や健康を支援する人や団体を対象）

- ①交流会や栄養に関する講座の実施
- ②在宅高齢者の暮らしや食を支える協働活動

2 高齢者が地域とつながる活動（主に三新塔地区）

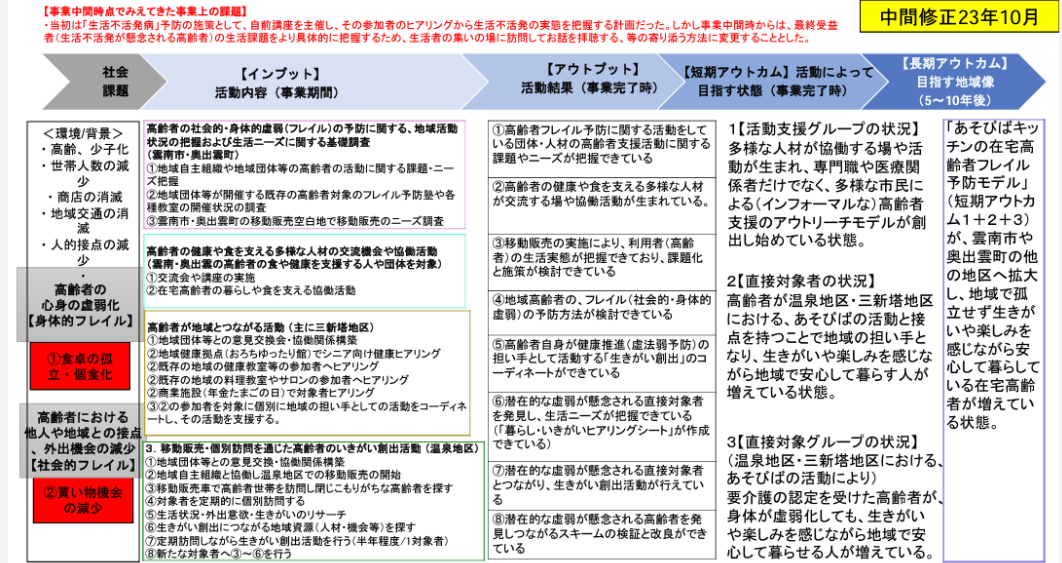
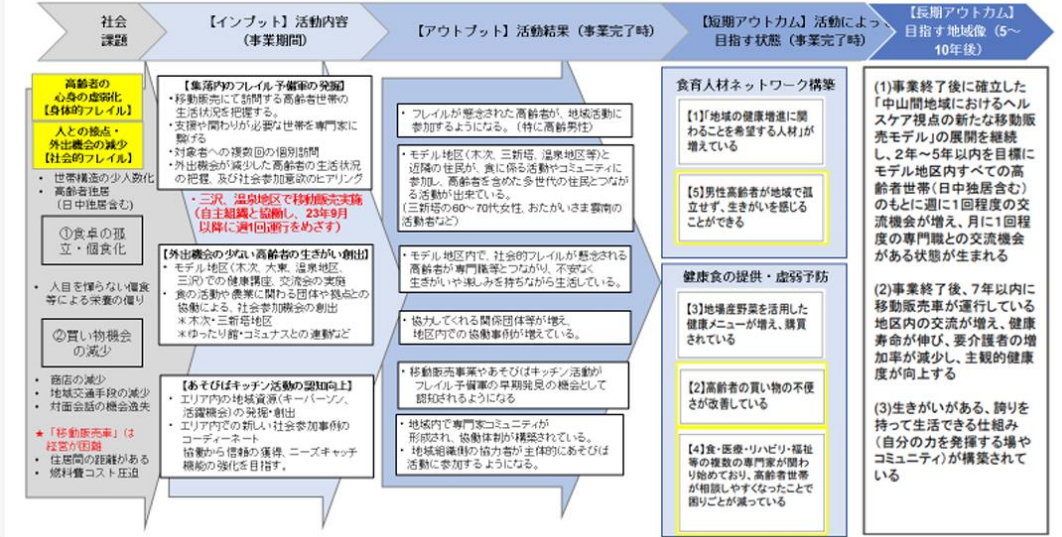
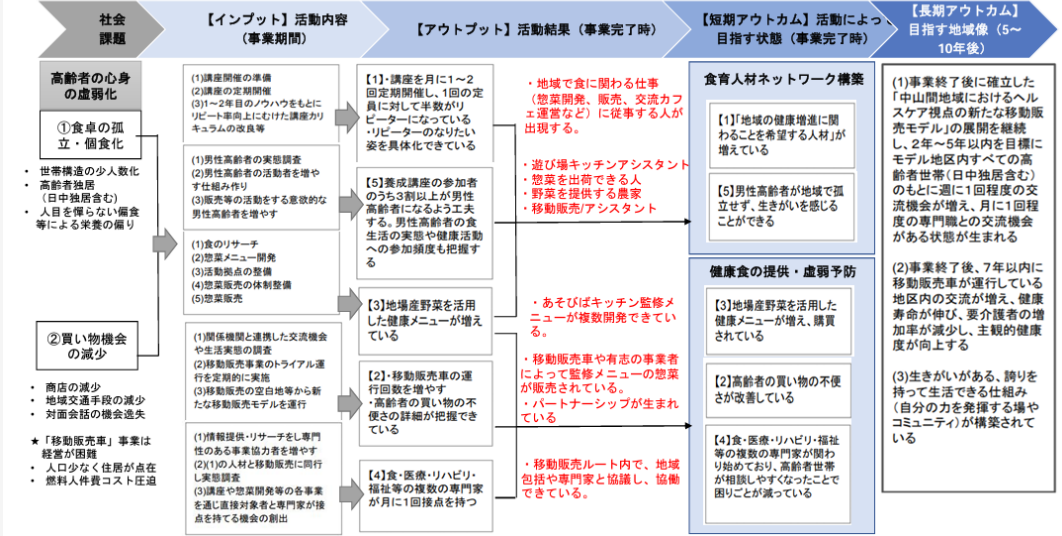
- ①地域団体等との意見交換会・協働関係構築を行う。
- ②-a 入浴施設や大型商業施設等の地域健康拠点でシニア向け健康教室の開催および、生活・栄養や活動意欲に関するヒアリングを行う。
- ②-b 既存の地域の健康教室等の参加者へヒアリングを行う。
- ②-c 既存の地域の料理教室やサロンの参加者へヒアリングを行う。
- ②-d 商業施設（”年金たまご”の日）で対象者ヒアリングを行う。
- ③②の参加者を対象に個別に地域の担い手としての活動をコーディネートし、その活動を支援する。

3 移動販売・個別訪問を通じた高齢者のいきがい創出活動（主に温泉地区）

- ①地域団体等との意見交換・協働関係構築を行う。
- ②地域自主組織と協働し温泉地区での移動販売を開始する。
- ③移動販売車で高齢者世帯を訪問し閉じこもりがちな高齢者を探す。
- ④対象者を定期的に個別訪問する。
- ⑤対象者ごとに生活状況・外出意欲・生きがいのリサーチを行う。
- ⑥対象者ごとに生きがい創出につながる地域資源（人材・機会等）を探す。
- ⑦対象者ごとに定期訪問しながら生きがい創出活動を行う（半年程度/1対象者）。
- ⑧新たな対象者へ③～⑥を行う（スキームの検証）。

【事業設計図(ロジックモデル等)や事業概念図】





【事業終了時の展望（持続化戦略）概要】

(5) 事業で目指した出口・持続化戦略の概要

①コンソーシアム体は「雲南あそびばキッチン・モデル」を共創し、発展的に解散するものの、各団体での活動において共創したモデルを用いた「生活不活発病」を予防する事業を継続する。事業を通じて共創した「雲南あそびばキッチン・モデル」を報告書で言語化する。

②中山間地域における、ヘルスリテラシー向上、高齢者の虚弱予防、里山型（互助）の見守り機能を付加した移動販売のモデルとして公的メディアへのPR、行政への提案を実施（広域のローカルベンチャー自治体へ提案）。

5. 事後評価実施概要

(1) 評価の目的

本評価報告書は、食という切り口で高齢者の日々の生活の質向上にどれくらい寄与できるかという視点で分析を行っている。高齢者と食というと栄養改善や粗食防止といった視点になりがちではあるが、それにとどまらず、食を通じた地域住民の交流の機会創出といった視点なども重視し、日々の生活を楽しめている在宅高齢者がどれくらい増えたかを客観的に分析することを目指した。

評価の際のポイント

1. 事業実施による対象者（各種イベントや居場所づくり参加者、移動販売購買者等）の生活行動や発言の変化
2. 事業実施による高齢者の活動の変化
3. 事業実施による予防支援活動団体の広がりの変化
4. 事業実施による団体の意識の変化

(2) 評価結果の活用

様々な支援の枠組みが整備されているにも関わらず、必要な人に必要なサービスと情報が届かない状況に悩んでいる支援者や行政担当者は少なくない。高齢者支援活動をしている様々な地域団体や人との繋がりによって、こうした状況が改善できることが他地域にも大いに参考になると考えられる。

(3) 評価の実施体制

内部/外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	①ニーズ調査	佐々木久美	あそびばキッチン実行委員会 代表
内部	②活動実施プロセス、事業遂行の検証	吉川英夫	あそびば・キッチンコンソーシアム組成団体
内部	③アウトプット・成果の達成状況（指標）測定	落合孝行	あそびばキッチン実行委員会 構成員
内部	④アウトカムの発現状況の測定	酒井可奈子	あそびばキッチン実行委員会 構成員
外部	⑤関係者ヒアリング・データの取りまとめ	尾野寛明	総務省地域力創造アドバイザー

項目	事前評価	中間評価	事後評価
実施体制・スケジュール	実行団体（調査・評価、全体とりまとめ）	実行団体（調査・評価、全体とりまとめ）	<p>実行団体及び外部人材が、資金分配団体等とともに、調査・評価、全体とりまとめを行った。</p> <p>○スケジュール（いずれも 2025 年）</p> <p>10 月：事実認定のための追加調査・執筆</p> <p>11 月：事実認定のための追加調査・執筆</p> <p>12 月：コミュ財ヒアリング（自己評価・波及効果・妥当性・提言・知見等）執筆</p> <p>12 月末：パイロット版コミュ財提出</p> <p>1～2 月：レビュー会・修正</p> <p>2 月末：事業完了・事後評価報告書提出</p>

(4) 評価項目と測定方法

○評価要素 A：実施状況の分析

計画どおりアウトプット（＝活動の成果）は達成できているか？

評価項目	評価小項目	評価基準		測定方法		評価時期
		判断方法（指標など）	判断基準値（目標値/状態など）	必要なデータ	収集方法	
実施状況の適切性	1-1. 雲南市・奥出雲町にて、高齢者フレイル予防に関する活動をしている団体・人材（地域自主組織や市民団体等）の高齢者支援活動に関する課題やニーズが把握できているか？	1, ヒアリングした人の数 2, 把握した活動団体の課題やニーズの件数	(目標/状態) 1, 60 人 2, 30 件	定量	ヒアリングシート	事後評価
	1-2. 高齢者の健康や食を支える多様な人材が交流する場や協働活動が生まれているか？	1, 会開催回数 2, 参加者数 3, 協働活動の件数 4, 協働した団体数	(目標/状態) 1, 10 回 2, 50 人 3, 10 件 4, 10 団体	定量	ヒアリングシート	事後評価

実施状況の適切性	2-1. 雲南市・奥出雲町での移動販売の実施により、利用者（高齢者）の生活実態が把握できており、課題化と施策が検討できているか？	1, ヒアリング人数（のべ） 2, 運行回数（のべ） 3, 生活ニーズの課題分類	（目標/状態） 1, 200人 2, 100回 3, 10分類（サンプル）	定量	ヒアリングシート	事後評価
	2-2. 地域高齢者の、フレイル（社会的・身体的虚弱）の予防方法が検討できているか？	1, 対象者の困りごと・興味・関心・地域活動への意欲の把握数（アンケート回答数）	（目標/状態） 1, 50件	定量	アンケート（年金卵の日・栄養×体操）※データを基にメンバーで傾向や対策を検討する会を開催。	事後評価
	2-3. 高齢者自身が健康推進（虚弱予防）の担い手として活動する「生きがい創出」のコーディネートができてきているか？	1, 地域の担い手として活動をコーディネートした件数 2, 実際に地域活動を行った人数	（目標/状態） 1, 5件 2, 2人	定量	ヒアリングシート、ケースシート作成	事後評価
実施状況の適正性	3-1. 潜在的な虚弱が懸念される直接対象者を発見し、生活ニーズが把握できている（「暮らし・いきがいヒアリングシート」が作成できているか？	1, 声かけした潜在的対象者の人数 2, 潜在的対象者のニーズの把握（暮らし・いきがいヒアリングシートの数）	（目標/状態） 1, 10人 2, 5件	定量・定性データ	関係者インタビュー調査、ヒアリング、アンケート	事後評価
	3-2. 潜在的な虚弱が懸念される直接対象者とつながり、いきがい創出活動が行えているか？	1, 「生きがい資源見える化シート」の数 2, 「やってみたいこと準備シート」の数 3, 生きがい創出活動を行った人数	（目標/状態） 1, 5件 2, 5件 3, 5人	定量・定性データ	関係者インタビュー調査、ヒアリング、アンケート	事後評価
	3-3. 潜在的な虚弱が懸念される高齢者を発見しつながるスキームの検証と改良ができてきているか？	1, スキームの検証と改良の回数	（目標/状態） 1, 3回	定量・定性データ	関係者インタビュー調査、ヒアリング、アンケート	事後評価

その他：アウトプット達成のためのインプットは適切か？	アウトプット達成状況とそのためのインプット内容	(状態) アウトプット達成のための資金・人材・機材等のインプット内容を把握し整理できている。	定量・定性データ	関係者インタビュー調査、ヒアリング、アンケート	事後評価
----------------------------	-------------------------	--	----------	-------------------------	------

○評価要素 B：アウトカムの分析

計画どおりアウトカムが達成できているか？（=あそびば活動によって対象者や地域が目指す状態になったか？）

評価項目	評価小項目	評価基準		測定方法			評価時期
		判断方法（指標など）	判断基準値（目標値/状態など）	必要データ	情報源	収集方法	
アウトカムの達成度	1. 【活動支援グループの状況】多様な人材が協働する場や活動が生まれ、専門職や医療関係者だけでなく、多様な市民による（インフォーマルな）高齢者支援のアウトリーチモデルが創出し始めている状態になっているか？	1, 協働活動の数と活動者数（温泉・三新塔） 2, 交流会の形態（三刀屋）	（目標/状態） 1, 6回（温泉、三新塔：各3回）・60人 2, 定期的開催	定量・定性データ	実行団体の関係者	ヒアリングシート、アンケート	事後評価
	2. 【直接対象グループ①の状況】フレイルが懸念された高齢者が、（温泉地区・三新塔地区における、あそびばの活動と接点を持つことで）地域の担い手となり、生きがいや楽しみを感じながら地域で安心して暮らす人が増えている状態になっているか？	1, フレイルが懸念された高齢者が活動支援グループ（専門職や医療、地域のインフォーマルな活動者、地域自主組織などの団体等）とつながった人数 2, 上記1のつながりの客観的状态 3, 直接対象者の意欲の状态（ヒアリング）	（目標/状態） 1, 6人 2, フレイルが懸念された高齢者の存在が活動支援者グループで顕在化するとともに、地域の担い手として新たな活動に取り組み始めている状態。 3, 直接対象者の状態・意欲の状态が初期値から意欲の指標で向上している。	定量・定性データ	実行団体の関係者	ヒアリングシートで追跡	事後評価

アウトカムの達成度	3. 【直接対象グループ②の状況】（温泉地区・三新塔地区における、あそびばの活動により）とじこもりがちで社会的フレイルの進行が懸念される高齢者が、身体が虚弱化しても、生きがいや楽しみを感じながら地域で安心して暮らせる人が増えている状態になっているか？	1, つながりができ顕在化した直接対象者の人数 2, つながりができた直接対象者と医療者・支援者グループとの関係	(目標/状態) 1, 6人 2, (温泉・三新塔地区におけるあそびばの活動により) 専門職や医療関係者を通じて接点もてるようになり、6サンプルが顕在化している。また、専門職・医療職以外の活動団体や支援者とつながっている状態。	定量・定性データ	実行団体の関係者等	移動販売 ヒアリングシート、佐々木(代表)のエピソード	事後評価
	実行団体の組織基盤の強化や事業の持続可能性が高まっているか？	組織基盤の強化や事業の持続可能性が高まった具体例	(目標/状態)	定量・定性	実行団体	関係者インタビュー調査	事後評価
	実行団体が目指す社会的困難者を支える地域の総働体制ができ始めはじめているか	(活動前後の体制図)	(状態・目標) 活動前後の体制図ができている	定量・定性	実行団体	関係者インタビュー調査	事後評価
	事業の効率性は？	アウトカムを産出するために実際に投入した資源、あまり使われなかった資源があるかなどの資金・人材・機材などの資源の活用状況	(状態) アウトカムを産出するために実際に投入した資金・人材・機材などの資源の活用状況が整理できている。	定量・定性データ	実行団体	関係者インタビュー調査	事後評価
	事業で達成した成果のうち、特に社会課題解決に貢献したアウトカムと、達成が困難であったアウトカムについてその要因や課題は？	事業で達成した成果のうち、特に社会課題解決に貢献したアウトカムと、達成が困難であったアウトカムについてその要因や課題の把握	(状態) アウトカムの達成状況、活動実績より、アウトカム発生に影響を与えた阻害要因、貢献要因が整理できている。	定量・定性データ	実行団体	関係者インタビュー調査	事後評価

波及効果	波及効果（想定外、波及的・副次的効果）が確認されたか？	波及効果（想定外、波及的・副次的効果）の把握	（状態）波及効果（想定外、波及的・副次的効果）が整理できている。	定量・定性データ	実行団体	関係者インタビュー調査	事後評価
その他深掘り検証項目	実行団体の目指す地域像に向けて 1) これまでの活動と休眠預金活用事業の位置づけ 2) 今後必要な活動 3) 新たに見えてきた課題 4) 休眠預金活用事業の適用の可能性が整理できているか？	1) これまでの活動と休眠預金活用事業の位置づけ 2) 今後必要な活動 3) 新たに見えてきた課題 4) 休眠預金活用事業の適用の可能性の把握	（状態） 1) これまでの活動と休眠預金活用事業の位置づけ 2) 今後必要な活動 3) 新たに見えてきた課題 4) 休眠預金活用事業の適用の可能性が整理できている。	定性データ	実行団体	関係者インタビュー調査、関係者ディスカッション調査	事後評価
	実行団体が目指すローカルアクションを支える地域の総働体制ができ始めているか？	未来の体制図	（状態・目標） 未来の体制図ができている状態	定性データ	実行団体	関係者ディスカッション調査	事後評価

○評価要素 C：総括

評価項目	評価小項目	評価基準		測定方法			評価時期
		判断方法(指標等)	判断基準値（目標値/状態など）	必要データ	情報源	収集方法	
自己評価	事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価	事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価	事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価が整理できている。	定性データ	実行団体	関係者ディスカッション調査	事後評価
妥当性	事業実施の妥当性	事業実施の妥当性	事業実施の妥当性が整理できている。	定性データ	実行団体	関係者ディスカッション調査	事後評価

提言	提言	提言	評価結果に基づき事業を継続していく上で、役立つ提案・助言を整理できている。本事業をどのように持続・発展させるか、休眠預金に依存せずに自走化させる戦略とその実施状況等が整理できている。	定性データ	実行団体	関係者ディスカッション調査	事後評価
知見・教訓	知見・教訓	知見・教訓	事業の経験や学びから類似課題への取組みに参考とできる具体的な教訓が整理できている。	定性データ	実行団体	関係者ディスカッション調査	事後評価

6. 事業の実績

6-1. インプット

総事業費	13,622,500 円	
主な人材	<ul style="list-style-type: none"> ・佐々木久美（あそびばキッチン実行委員会代表）：栄養講座の開催、食と健康づくりの居場所づくりに向けた各種企画運営、地域とのつながりづくり、栄養バランスが良いメニュー（レシピ）の開発。 ・吉川英夫（コンソーシアム組成団体代表）：移動販売、買い物を通じた地域住民の健康把握、健康サロンの開催。 ・落合孝行（実行委員会構成員）：健康講座の開催、地域とのつながりづくり、事務管理、会計。 	
資機材	なし（自前設備は持たず、地域資源の活用を目指した。空き店舗や公共施設などの拠点を発掘し、近隣関係者の巻き込みをはかった。）	
経費	契約当初の計画金額	実際に投入した金額 ※2025年2月25日時点
	事業費総額 13,622,500 円 直接事業費 13,020,000 円 管理的経費 0 円 評価関連費 602,500 円	事業費総額 12,594,153 円 直接事業費 11,994,153 円 管理的経費 0 円 評価関連費 600,000 円
自己資金	契約当初の自己資金の計画金額	実際に投入した自己資金 ※2025年2月25日時点
	840,000 円	移動販売収益 800,000 円 あそびば食堂販売売上 および 惣菜販売収益 40,000 円
	資金調達で工夫した点	
	移動販売の定期運行や運営形態の工夫により、販売収益を確保する工夫を常時行った。セントラルキッチンの導入を検討したが、固定の拠点を作らないなど、経費を抑えるための工夫を行った。	

6-2. 活動とアウトプットの実績

(1) 期間別の活動の変遷

フェーズ	時期	活動内容
「食×健康ニーズ調査期」	R4年10月 ～R5年3月	コンソーシアム関係者が主催している生涯現役講座や食の起業塾、健康惣菜づくり・移動販売といった取り組みを通じて「食×健康」ニーズに関して広く調査を行った。また、周辺地域で行われている様々な食のイベント参加を通じて本事業の周知と協力打診を実施した。
「食×生きがいケースづくり期」	R5年4月 ～R6年12月	「生きがい発見シート」の開発等を通じて、青空サロン・げんき会、茶飲ん場えびすなどの連携先へ赴き「食×生きがい」をキーワードに活動されている方々のケース調査を行った。
「食×生きがい発掘プレイヤーづくり期」	R5年10月 ～R6年12月	住民の主体的チャレンジ事例を発掘しつつ、個別の際立つ事例に深く入り込み、調査及び深いレベルの支援も行った。また、協働団体に上記ツールの活用を促し、自ら生きがいを持つとすだけでなく周りの人の生きがいまで発見して応援できる住民発掘に力を入れた。

(2) アウトプットの実績

(概要のみ、詳細なデータは非公開の「対象者ニーズ調査一覧 > アウトプットの集計と詳細」に記載)

アウトプット	指標	初期値 初期状態	判断基準値	目標達成時期	実績値
1-1. 雲南市・奥出雲町にて、高齢者フレイル予防に関する活動をしている団体・人材（地域自主組織や市民団体等）の高齢者支援活動に関する課題やニーズが把握できているか？	1, ヒアリングした人の数 2, 把握した活動団体の課題やニーズの件数	1, 0人 2, 0件	1, 60人 2, 30件	事業完了時	1, 79人（詳細は非公開の「対象者ニーズ調査」一覧に取りまとめ、以下同じ） 2, 74件（地域自主組織、認知症フレンドリー絆や、奥出雲社会福祉協議会、三新塔・雲南体操の会、あじさいの会（大東太極拳教室）、CNCなど）

<p>1-2. 高齢者の健康や食を支える多様な人材が交流する場や協働活動が生まれているか？</p>	<p>1, 会開催回数 2, 参加者数 3, 協働活動件数 4, 協働した団体数</p>	<p>1, 0回 2, 0人 3, 0件 4, 0団体</p>	<p>1, 10回 2, 50人 3, 10件 4, 10団体</p>	<p>事業完了時</p>	<p>1, 22回 (料理教室、生涯現役マスターズ、味噌作りの会、青空サロン、パスカル試食会、ちょっこしお茶会、男塾、フレイル予防塾、雲南体操の会、ユートピア栄養セミナー、あそびば食堂、SNS健康カフェ、温泉キャンパス等) 2, 298人 3, 23件 4, 54団体 (CNC、おんせんキャンパス、温泉交流センター、三新塔交流センター、元気会、三日市サロン、みざわ小さな拠点づくりの会、あじさいの会、認知症フレンドリー絆や、くまっこ喫茶など)</p>
<p>2-1. 雲南市・奥出雲町での移動販売の実施により、利用者（高齢者）の生活実態が把握できており、課題化と施策が検討できているか？</p>	<p>1, ヒアリング人数 (のべ) 2, 運行回数 (のべ) 3, 生活ニーズの課題分類</p>	<p>1, 0人 2, 0回 3, 0分類</p>	<p>1, 320人 2, 100回 3, 10分類</p>	<p>事業完了時</p>	<p>1, 運行回数1回にあたり、平均2名ヒアリングと推定 2, 164回 3, 10分類 (サンプル: 買い物に困っている、人と話したい、日用品の提案が欲しい、人に振る舞う嗜好品が欲しい、活動等のきっかけが欲しい、地域情報が欲しい、健康面の相談をしたい、など)</p>
<p>2-2. 地域高齢者の、フレイル (社会的・身体的虚弱) の予防方法が検討できているか？</p>	<p>1, 対象者の困りごと・興味・関心・地域活動への意欲の把握数 (アンケート回答件数)</p>	<p>1, 0件</p>	<p>1, 50件</p>	<p>事業完了時</p>	<p>1, 99件 (年金卵の日アンケートを主軸に、生涯現役マスターズ、元気会等の自主イベント、さらに関係団体の協力イベント等による把握)</p>

<p>2-3. 高齢者自身が健康推進（虚弱予防）の担い手として活動する 「生きがい創出」のコーディネートができてきているか？</p>	<p>1, 地域の担い手として活動をコーディネートした件数 2, 実際に地域活動を行った人数</p>	<p>1, 0件 2, 0人</p>	<p>1, 5件 2, 2人</p>	<p>事業完了時</p>	<p>1, 8件 2, 11人（定年退職後の趣味の活動や、現役時代の知見を活かした再チャレンジ、地域資源を活かした取り組みに「地域の健康増進」を掛け合わせた新たな取組などが生まれた。）</p>
<p>3-1. 潜在的な虚弱が懸念される直接対象者を発見し、生活ニーズが把握できている（「暮らし・いきがいヒアリングシート」が作成できている）か？</p>	<p>1, 声かけた潜在的対象者の人数 2, 潜在的対象者のニーズの把握（暮らし・いきがいヒアリングシートの数）</p>	<p>1, 0人 2, 0件</p>	<p>1, 10人 2, 5件</p>	<p>事業完了時</p>	<p>1, 43人 2, 9件（シート作成となると女性は深い詮索を遠慮されてしまう傾向にあり男性が多め。）</p>
<p>3-2. 潜在的な虚弱が懸念される直接対象者とつながり、いきがい創出活動が行っているか？</p>	<p>1, 「生きがい資源見える化シート」の数 2, 「やってみたいこと準備シート」の数 3, 生きがい創出活動を行った人数</p>	<p>1, 0件 2, 0件 3, 0人</p>	<p>1, 5件 2, 5件 3, 5人</p>	<p>事業完了時</p>	<p>1, 4件 2, 4件 3, 4人（3-1の対象者からさらに深く関与できた件数）</p>
<p>3-3. 潜在的な虚弱が懸念される高齢者を発見しつながらスキームの検証と改良ができてきているか？</p>	<p>1, スキームの検証と改良の回数</p>	<p>1, 0回</p>	<p>1, 3回</p>	<p>事業完了時</p>	<p>1, 3回（CNC、温泉キャンパス、あそびば食堂+三新塔各団体との連携）</p>

6-3. 外部との連携の実績

<p>行政、企業、NPO、アカデミアなどステークホルダーとの連携</p>	<p>地域自主組織、地域団体、奥出雲社会福祉協議会、地区住民、住民スタッフ、料理教室・サロン参加者など、高齢者フレイル予防に関する活動をしている団体・個人 88 人のヒアリングを行い連携を深めた。また、奥出雲町にある島根リハビリテーション学院と地域課題解決型フィールドワーク授業を実施し、学生も本事業に地域活動として呼び込むことができた。</p>
<p>市民参加</p>	<p>高齢者自身が健康推進の担い手となり、地域での生きがいや楽しみを感じながら活動を行うことを促進した。特に、定年退職後の趣味や現役時代の知見を活かした再チャレンジが重要な要素となり、これにより 8 件 11 名の新たな取り組みが創出された。市民が主体的に参加し、地域資源を活用した活動が進められた結果、参加者は自身の知識や経験を地域貢献に活かし、同時に他の地域住民との交流を深めることができた。このような市民の主体的な参加を通じて、高齢者の社会的なつながりが強化され、孤立感の軽減や生きがいの創出が図られた。また、参加者が自身の活動を通じて地域の健康増進に貢献する姿勢が、周囲の住民にも好影響を与え、活動の輪が広がっていった（下記報告イベントエピソード 1～4 参照）。市民参加によって、地域社会全体で高齢者支援の意識が高まり、相互に支え合う仕組みが自然に生まれている。</p>
<p>包括的な連携、コレクティブインパクトによる事業組成を実施するにあたって、仕組み作りのために行った工夫</p>	<p>異なる専門職や団体が協力する包括的な連携体制を構築し、事業を推進した。特に、管理栄養士、社会福祉士、移動販売支援を行う NPO 団体など、異なる分野の専門家と市民団体が連携することで、より多面的な支援が可能となった。仕組み作りにおいては、共通の評価システムを導入し、各団体が互いにどのような役割を果たすかを明確にすることで、効率的に活動を進めることができた。また、継続的なコミュニケーションを図るために、定期的なミーティングやイベントへの参加を推奨し、各団体間での情報共有や支援の相互作用を強化した。これにより、各団体の活動が一体となり、地域の健康増進に向けた体制を構築した。各団体の強みを活かした相互支援体制が構築され、地域全体での健康支援のネットワークが強化される結果となった（下記報告イベントエピソード 1、3、4 参照）。</p>
<p>事業に係る行政等に対し、政策提言や政策提言に向けた取り組みなどをどのように実施したか</p>	<p>○活動報告イベントの開催（2025 年 2 月 10 日 三新塔交流センター）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者：現地 8 名、オンライン 3 名 ・3 年間あそびばキッチンとして声をかけた人達に対し「おかげ様でこういう活動ができました」の報告会を開催。本事業で言語化した「あそびばキッチン」モデルと、あそびばキッチンがこの 3 年間にわたり歩んできた軌跡の説明を行った。そこに込められた「人生を美味しく味付けする遊び場」という理念を参加者と共有する貴重な場となった。 ・当日のコンセプト <ol style="list-style-type: none"> ①『あそびばキッチン』に込めた想い ②関わって頂いたお礼も含めこれまでの活動の様子を紹介（実は私たち、こんなコトやってきました・・料理教室、研修講師、イベント企画・出店、健康惣菜） ③あそびばの報告を話題にスイーツをたべながら交流 ④あそびばキッチンがお世話になった方々（関係性図）の紹介

	<p>・活動エピソード</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ごぼう茶のHさん（三新塔・70代男性）の応援団 2 移動販売車が生んだ新たなつながり 3 新たな居場所を作る「くまっこ喫茶」 4 ももいろキッチン×あそびばの共同企画 <p>・まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> -佐々木代表の構想から応援団が色々広がっていった。 -レシピ集で食事を再現しながら、みんなの感想を聞く。 -今後の各メンバーの抱負について（それぞれが活動を続けていく）。 -自分たちが場を用意するのではなく、混ぜてもらったらこういう場になった。自分たちが助けるのではなく、自分たちが助けられたことに感謝。 -3年でこれが区切りになるが、あそびばは残るので、チームとして残る、また何かやりたいことがあれば、是非声をかけていただきたい、佐々木の今後の戦略はぜひみんなで考えてほしい。 <p>・イベント当日メニュー</p> <ol style="list-style-type: none"> ①米粉シフォンケーキ（ももいろキッチン）：ノンオイルでもしっとりとするように工夫した。プレーンや醤油味など作ってみたが、当日のごぼう茶商品開発の事例報告を聞いて、ごぼう茶でも挑戦してみたい。 ②赤飯、豆腐の南蛮漬け、Tさんの料理のオマージュ（かやぶき料理教室）カッテージチーズとスナックエンドウの付け合せの応用版。
<p>事業の関係人口の経年変化をとらえたエコマップまたはステークホルダーマップ</p>	<p>「7. アウトカムの分析」の項目に、あそびばキッチンの各部門および三新塔・温泉地区の各団体の連携相関図および令和4年9月時点、令和5年9月時点からの変化の軌跡を記載。</p>

7. アウトカムの分析

7-1. アウトカムの達成度

(1) 短期アウトカムの計画と実績

<p>アウトカム1</p>	<p>多様な人材が協働する場や活動が生まれ、専門職や医療関係者だけでなく、多様な市民による（インフォーマルな）高齢者支援のアウトリーチモデルが創出し始めている状態</p>		
<p>指標</p>	<p>初期値</p>	<p>目標値</p>	<p>アウトカムの発現状況（実績値）</p>
<p>1, 協働活動の数と活動者数</p>	<p>1, 0回・0人</p>	<p>1, 28回（温泉、三新塔：各3回）・60人</p>	<p>1. 28回・294人 ○温泉地区</p>

<p>(温泉・三新塔)</p> <p>2, 交流会の形態 (三刀屋)</p>	<p>2, 開催実績なし</p>	<p>2, 定期的開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あおぞらサロン12回/のべ108人 (温泉郵便局前/おんせんキャンパス) ・温泉地区 食×交流イベント: 4回/のべ80人 (笹巻き交流/しし汁交流交流/餅つき交流/一緒に遊んでお茶会) ○三新塔地区 <ul style="list-style-type: none"> ・だんだん号×あそびばキッチン2回/のべ20人 ・木次駅前にぎわい市2回/のべ16人 ・あそびば食堂5回/のべ25人 ・くまっこ喫茶3回/のべ45人 <p>2. 月1回以上何らかの会が定期開催される状況にある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温泉地区定例 MTG/あそびば活動報告&交流会等
<p>調査データ</p>	<p>定量・定性データ</p>		
<p>情報源</p>	<p>実行団体の関係者</p>		
<p>収集方法</p>	<p>ヒアリングシート、アンケート</p>		
<p>特定した事実</p>			
<p>温泉地区および三新塔地区において、地域内のこれまで関わりのなかった市民相互の交流が生まれ、地域の高齢者支援のために新たなアウトリーチ活動を生み出している。活動回数や参加者数において、目標値を大きく上回る実績が記録されており、特に活動の定期性と参加者数の増加が顕著である。例えば、「温泉サロン」では、温泉キャンパスで地域住民と学生、職員が交流する場を提供し、その活動が地域内で大きな関心を呼んでいる。参加者からは次回の開催を希望する声が多く、これにより地域のつながりが強化される兆しが見える。また、同じく「三新塔」の活動では、孤立していた高齢女性が「茶のんば」などの活動に参加するようになり、他の住民と自然に交流する場を得たことが示されている。フレイル予防に関する活動においても、地域の多くの団体が関与し、健康や食のサポートに関わる人材の交流が生まれている。地域住民の提案により、「縁側サロン」など、活動の範囲が広がる可能性が見えてきており、地域内での協力体制がますます強化される期待が持たれている。</p>			
<p>具体例 (エピソードなど)</p>			
<p>具体的な事例として、温泉地区での「青空サロン」や「おせっかい会議」などが挙げられる。これらの活動では、地域住民がイベントに参加したり運営に関わる中で他の団体とのつながりが生まれ、新たな活動が生まれている。また、「あそびば食堂」では、Hさん(三新塔・70代男性)やAさん(70代男性/温泉地区)など地域の住民が積極的に関与し、食に関心を持つ人々が集まり、新たなつながりを形成する場となった。特に、佐々木(代表)が媒介役となった点は大きい。地域をまたいでこれまでつながることのなかった同業種・異業種協力が生まれ、新たな取り組みが生まれる動きが見られた。こうした活動は、単に食事を提供するだけでなく、地域の担い手としての意識を高め、長期的な地域活性化へと繋がる可能性を秘めている。</p> <p>具体例としては、三新塔地区の「茶のんばえびす」活動において、これまで交流の少なかった高齢女性が他の住民と接点を持つようになった。佐々木(代表)が「食」を切り口に声かけや会話の糸口を作り出し、孤立気味であった方が活動に参加するこ</p>			

とで、地域内の交流の幅が広がった。また、「青空サロン」では、温泉キャンパスの学生や職員が参加し、地域の高齢者と世代を超えた交流が実現した。これにより、地域の絆が深まり、参加者からは「次回も開催してほしい」といった意見が多く寄せられた。さらに、サロン後に「おせっかい会議」が開かれ、参加者が今後の活動に向けた具体的な提案を行った。

一方で、医療関係者との連携については課題が残った。栄養相談などで医療関係者を紹介してもらったが、結果的に3人の対象者に断られるという事例が発生した。特に、自宅訪問のハードルが高く、接点を持つことの難しさを実感した。そのため、直接的なアプローチではなく、つながりを通じた間接的な支援方法に手応えを感じている。このような反省点を踏まえ、今後はより柔軟で効果的なアウトリーチ方法を模索し、地域社会により適した支援モデルを構築することが求められる。

価値判断

本事業の成果は、目標を大きく上回る実績を上げ、地域における協働活動が確実に進展している点で高く評価できる。活動の定期性や参加者の増加は、地域住民の関心と参加意欲が向上している証拠であり、専門職や医療関係者だけでなく、市民団体や地域住民も主体となって活動に関わるようになった。これらの活動は、地域の高齢者支援の新しいモデルを作り出しており、医療関係者や専門職だけでなく、市民が中心となって支援活動に関わる点で重要な意義を持つ。「温泉サロン」や「三新塔」で見られるように、地域の異なる世代が協力し合い、自然に交流が生まれていることは、地域社会の絆を深める良い例である。地域住民の提案や参加が活発になり、次回の開催についても具体的な意見が出ていることは、活動が定着し、今後さらに広がる可能性を示唆している。特に、本事業各委員の地域・分野をまたぐ活動により、異なる世代が協力した動きが進み、地域相互・全体にこれまでにないゆるやかな関係性が構築されつつある点も斬新と言える。アウトリーチモデルとしての成功が見えており、今後も継続的な活動が期待される。しかしながら、課題も顕在化している。個性的な3者の活動により、多くの人が「楽しい・堅苦しくない」健康づくりや生活支援に接する機会が生まれ、予期しない形でのチャレンジ支援が実現した一方で、これらの活動が他地域に応用可能なアウトリーチモデルとなるかという点では未完成な部分も多い。

アウトカム 2	2. 【直接対象グループ①の状況】 フレイルが懸念された高齢者が、（温泉地区・三新塔地区における、あそびばの活動と接点を持つことで）地域の担い手となり、生きがいや楽しみを感じながら地域で安心して暮らす人が増えている状態。		
指標	初期値	目標値	アウトカムの発現状況（実績値）
1, フレイルが懸念された高齢者が、活動支援グループ（専門職や医療、地域のインフォーマルな活動者、地域自主組織などの団体等）とつながった人数	1, 0 人	1, 6 人	1, 14 人（個人名を伏せるため、詳細は非公開の「対象者ニーズ調査一覧 > アウトカムの分析と詳細」に掲載）

<p>2, 上記1のつながりの客観的状态</p> <p>3, 直接対象者の意欲の状態（ヒアリング）</p>	<p>2, あそびばキッチン実行委員会とのつながりが無し</p> <p>3, ヒアリング事例なし</p>	<p>2, フレイルが懸念された高齢者の存在が活動支援者グループで顕在化するとともに、地域の担い手として新たな活動に取り組み始めている状態。</p> <p>3, 直接対象者の状態・意欲の状態が初期値から意欲の指標で向上している状態。</p>	<p>2, 定年退職後の趣味の活動や、現役時代の知見を活かした再チャレンジ、地域資源を活かした取り組みに「地域の健康増進」を掛け合わせた新たな取組などが生まれている。生活機能低下や繋がり希薄化により地域との関係性や役割づくりが難しくなる中、ヒアリングを通じて、あそびばキッチンの活動を手伝いながら、最終的にあそびばキッチンの場がなくても、自然と専門職や場作りの支援者につながっていく状態が作られた。</p> <p>3, 各種生きがいシートの作成や生きがい創出に向けたコーディネート活動を通じて意欲にとどまらず小さな企画や営業活動が生まれている。</p>
<p>調査データ</p>	<p>定量・定性データ</p>		
<p>情報源</p>	<p>実行団体の関係者</p>		
<p>収集方法</p>	<p>ヒアリングシート、アンケート</p>		
<p>特定した事実</p>			
<p>温泉地区や三新塔地区では、あそびばキッチンの活動を通じて地域支援グループとのつながりが形成され、フレイル高齢者が地域活動に参加するようになった。目標値に対して、活動の回数や参加者数は大幅に超過しており、定期的に活動が行われ、地域の健康増進や生活支援に貢献している。例えば、活動支援者グループとのつながりが形成され、その中でフレイル高齢者が新たな活動を始める状況が見られる。活動支援グループには医療従事者や地域の市民団体が含まれ、フレイル予防に向けた協力体制が確立された。</p> <p>例えば、温泉地区では、Fさんという60代男性が活動に参加し、地域の支援グループとつながり、積極的に地域活動に関わるようになった。また、活動を通じて意欲が高まり、地域内で新たなつながりを築くことができた。フレイルが懸念される高齢者が地域活動と接点を持つことにより、地域の担い手として活躍し、生きがいや楽しみを感じながら安心して暮らすことを促進するにあたり、こうした事例は、フレイル高齢者が地域活動に参加することで、その後の生活の質が向上し、地域内での担い手としての役割を果たし始めていることを示している。</p>			
<p>具体例（エピソードなど）</p>			
<p>具体的な事例として、温泉地区での「青空サロン」や「あそびば食堂」がある。これらの活動は地域住民の関心を集め、特に高齢者が楽しみながら参加できる場として機能している。例えば、「あそびば食堂」では、Hさん（三新塔・70代男性）が提供したごぼう茶を使った料理が高齢者に好評で、地域の住民同士が食を通じて交流する場となった。さらに、参加者の中に</p>			

は自らも活動を企画したり、他の住民と連携して新たな取り組みを提案する動きが見られた。三新塔地区では、定期的に開催される「おせっかい会議」において、地域の担い手となる人物が登場し、新しい活動の立ち上げが進んでいる。対象者ヒアリングからも、活動を通じて高齢世代が生きがいや楽しみを感じている内容のコメントが散見されており、地域でのつながりが深まり、次のステップへと進んでいることがわかる。

Fさん（温泉地区／60代男性）の事例は、アウトカム2の達成における成功例として注目される。Fさんは、温泉地区であそびば活動に参加したきっかけで、地域活動への参加を続けている。最初は活動への参加に対する不安もあったが、支援グループのサポートとともに、地域とのつながりが強化され、今では地域の一員として積極的に活動している。また、Nさん（温泉地区／70代男性、独居）の事例では、活動への参加が一度はうまくいかなかったが、その後も支援の手を差し伸べることで、少しずつ意欲が改善しつつある。このような事例は、フレイル高齢者が活動に参加することが、生きがいや社会的つながりを生むきっかけとなり、今後の活動への参加意欲の向上に繋がる可能性を示している。

価値判断

これらの実績から、本項目は目標を大きく超える成果を上げ、フレイルが懸念される高齢者が地域活動の担い手として成長していることが確認できる。活動回数や参加者数が増加し、地域のネットワークが拡大したことは、事業が地域社会に深く根付き、持続可能な形で展開される可能性を示唆している。特に、「あそびば食堂」や「青空サロン」などの活動を通じて、地域住民が自発的に参加し、他の住民と連携することで、新たな地域づくりが進んでいる。また、地域支援グループとフレイル高齢者とのつながりが形成され、彼らが地域で活躍する担い手となる状態を実現している点でも、目標が概ね達成されていると言える。特にFさんの事例に見られるように、地域活動に積極的に参加することで高齢者が生きがいや楽しみを感じ、前向きなコメントが散見されるようになった。またNさんのように一時的に活動がうまくいかなかったケースでも、支援が続けられることで意欲が回復し、地域とのつながりが強化される可能性がある。フレイル高齢者の参加が促進され、その後の生活にポジティブな影響を与えていることから、アウトカム2は目標に対して高い達成度を示していると言える。今後もこうした支援の輪が広がり、地域全体でフレイル高齢者の生活を支える体制が強化されることが期待される。

アウトカム3	3. 【直接対象グループ②の状況】（温泉地区・三新塔地区における、あそびばキッチンの活動により）高齢者が、身体が虚弱化しても、生きがいや楽しみを感じながら地域で安心して暮らせる人が増えている状態。		
指標	初期値	目標値	アウトカムの発現状況（実績値）
1, つながりができ顕在化した直接対象者の人数	1, 0人	1, 6人	1. 8人（個人名を伏せるため、詳細は非公開の「対象者ニーズ調査一覧 > アウトカムの分析と詳細」に掲載）
2, つながりができた直	2, 直接対象者と医療関	2, （温泉地区・三新塔地区における、あそびばキッチンの	2, 専門職・医療職以外の活動団体や支援者とつながっている状態にある。地域自主組織や地域の民間団体（CNC

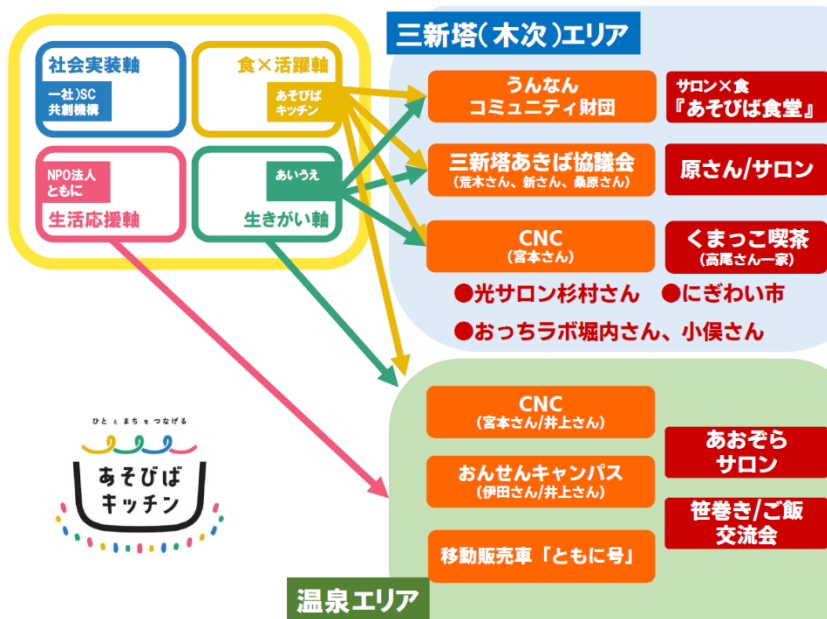
接対象者と医療者・支援者グループとの関係	係者とのつながりはある	活動により) 専門職や医療関係者を通じて接点があるようになり、6 サンプルが顕在化している。また、専門職・医療職以外の活動団体や支援者とつながっている状態。	など) と場作りを一緒に行う中で、本人の意欲だけでなく、今後の暮らしを支えていくための新しい専門家との接点が作られている。逆に団体側から直接対象者に「事例を話してほしい」「手伝ってほしい」といった形で、頼られる状態が作られている。「専門家-助けられる側」という一方的な関係性を乗り越えて、これからの社会的ヘルスケアの観点からも非常によい状態が作られているといえる。
調査データ	定量・定性データ		
情報源	実行団体の関係者		
収集方法	ヒアリングシート、アンケート		
特定した事実			
<p>温泉地区・三新塔地区における本事業の活動を通じて、身体的に虚弱な高齢者地域自主組織や地域の民間団体（CNC など）と場作りを一緒に行う中で、本人の意欲だけでなく、今後の暮らしを支えていくための新しい専門家との接点が作られている。目標値を超えて、8 人の高齢者が直接的なつながりを持ち、専門職や医療関係者との接点が生まれた。フレイル状態にある高齢者は専門職や医療との接点のみで、その「心の状態、生きがいの感じ方」の確認は、専門職や家族でない人間が把握することは難しい。また潜在的に社会的虚弱の方（主に独居で社会との接点がない方）とは専門職を通じても接点をもてない。医療関係者を中心とする支援者グループと対象者との関係が構築され、健康や生活支援の連携が進んだ。これらの成果は、あそびばキッチンの活動が地域のニーズに合った形で機能していることを示している。</p>			
具体例（エピソードなど）			
<p>温泉地区の「青空サロン」や三新塔地区の「おせっかい会議」など、地域住民と専門職の協力により、実際に生きがいや楽しさを感じている高齢者の事例が複数見られた。例えば、三新塔地区での「あそびば食堂」では、高齢者が自ら参加し、食を通じて他の地域住民と交流する場が実現した。この活動に参加した H さん（三新塔・70 代男性）は、他の住民との交流を通じて新たな友人を得ることができ、食の楽しさや交流の重要性を再認識したとのコメントがあった。また、温泉地区では、移動販売の活動を通じて、日常的に地域と接点を持つことができ、地域内での孤立感が軽減された。こうした活動により、高齢者が地域の担い手として積極的に関わる動きが見られるようになった。</p>			
価値判断			

アウトカム3については、地域における高齢者支援活動の新たなモデルを創出し、目標を上回る成果を上げたと言える。特に、地域住民と専門職が協力し合い、フレイルが懸念される高齢者が自発的に活動に参加することで、生きがいや楽しみを感じながら地域での生活が改善されている点が評価できる。また、あそびばの活動を通じて、医療関係者や支援者グループと高齢者とのつながりが深まり、地域全体で支え合う体制が確立されつつある。支援団体側から直接対象者に「事例を話してほしい」「手伝ってほしい」といった形で、頼られる状態が作られている。「専門家一助けられる側」という一方的な関係性を乗り越えて、これからの社会的ヘルスケアの観点からも非常によい状態が作られているといえる。このような地域活動の成功は、今後の地域活性化や高齢者支援のモデルとなり得る可能性があり、さらなる波及効果が期待される。

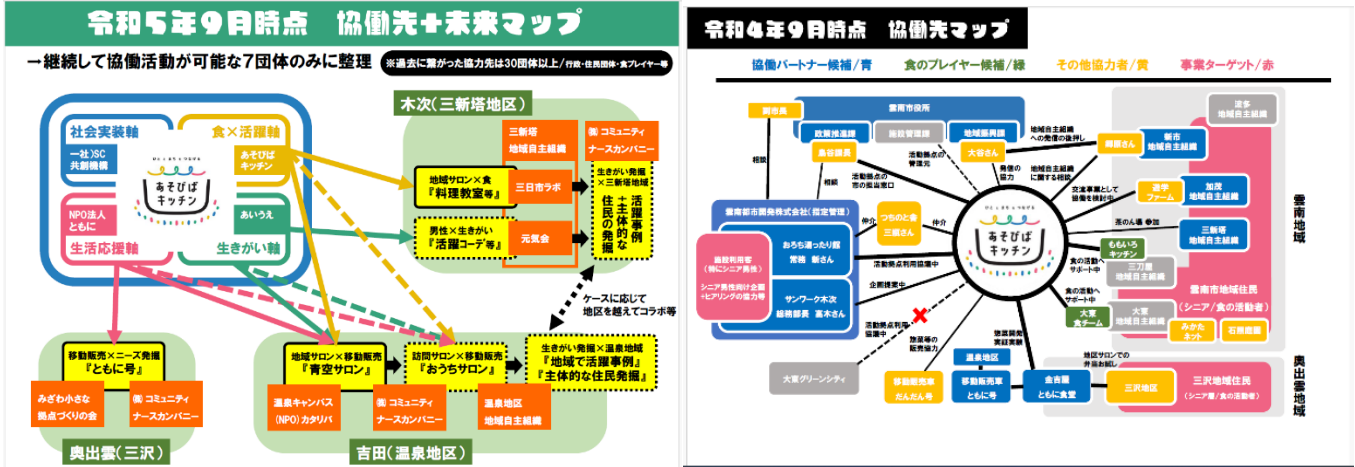
○モデル図



○連関図1：あそびばキッチンの各部門と、三新塔・温泉地区の各団体の連携相関図



○連関図 2：令和4年9月時点、令和5年9月時点のもの



(2) アウトカム達成度についての評価

事業の短期アウトカムの評価

短期アウトカムの目標値を上回って達成できている
 短期アウトカムの目標値を達成できている
 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できている
 短期アウトカムの目標値は達成できなかったと自己評価する

上記のように評価した理由

本事業は、短期アウトカムの目標値を達成しており、地域における協働活動や交流の機会が着実に増加したことが確認できる。目標値として設定された6回、60人の活動回数や参加者数は達成され、地域の関心を引きつけることができた。特に、温泉地区や三新塔地区での「あそびば食堂」や「青空サロン」など、地域住民と専門職が協力して実施した活動が好評を博し、参加者が増加した。これらの活動では、高齢者が楽しみながら参加し、他の住民と自然に交流する機会を得ることができ、地域のつながりが深まった（前ページの協働先マップと変遷も参照）。課題はあるものの、高齢者支援のアウトリーチモデルが一定程度形作られ、専門職や医療関係者との連携が生まれた点は重要な成果である。活動は定期的に行われ、地域住民の関心も高まり、参加者からは次回の開催を希望する声が多く上がった。今後の展開においても、さらに多くの地域住民が積極的に関わり、活動の輪が広がることを期待される。このように、目標を達成したことにより、地域内での相互支援体制が構築されたと考えられ、持続可能な支援づくりを継続していきたい。

7-2. 波及効果(想定外、波及的・副次的効果)

事業の実施によって当初想定した目標や中間的な成果以外の変化は確認されたか	
調査方法	インタビュー・聞き取り調査
分析方法	インタビュー・聞き取り調査から得られたエピソードから特定事実を抽出

特定した事実

1. 対象ニーズ調査といった別の目的であっても、地域住民の健康活動グループに「ちょっとだけよそ者」「グループメンバーとは異なる年齢層」の人が1人でも定期的に混ざること、最初はお客さんのような扱いでも気づけば当たり前前にその場に居るメンバーのような存在になることがあることがわかった。
2. これまでの「やってもらおう」関係性から、「一緒に場作りを行う」「どう続けるかを一緒に考える」関係性に進化していると感じる。場作りの意味を一緒に考えられるようになった。
3. 移動販売「ともに号」の休止により、地域住民がサービスの重要性を再認識し、利用者のニーズが思わぬ形で顕在化した。
4. 160回以上に渡り実施されている移動販売の現場では、利用者のニーズに応えるために今もなお日々の工夫が繰り返されている。販売スタッフインタビューにより、8分類25項目に及ぶ「ちょっとしたノウハウ」が共有されていることが分かった。

具体例（エピソードなど）

1. 本事業メンバーが対象ニーズ調査の一環で「げんき会」に長期密着していたが、継続して通っていることで信頼関係が深まった。当初は2〜3回立ち寄りだけでも来なくなると思われていたようでお客さんのような扱いであったが、今となっては会の最後に必ずコメントを振られるなど、場を和ませる役割を担うようになった。
2. 「空き家の勉強会をするから来てみないか」「老人会で健康づくり・フレイル予防勉強会をやるので顔出してみないか」などの声をかけてもらえるようになった。
3. 事業途中の2024年9月に「ともに号」が故障により移動販売が休止。当初は「様子見」の地域住民さんも多かったが、当たり前前に来ていたものが突然来なくなると、「さみしい」という声を急に聞くようになった。
4. 「大して買わないのに済まないねえ」と申し訳無さそうに話される方も多し。そんなときには「あなたの笑顔を見に来てますけん」（工夫1-2：声かけ、話し方の工夫>必殺ワードを考えておく） 「生活の背景を見つつ、甘いものが好き、自分である程度料理する人、などその人にハマる商品を推測していく。購買につながったり、新たな購買パターンが生まれると嬉しい。（販売員としては「ヨッシャー！！）」」（工夫2-1：陳列や商品提案の工夫>利用者の生活形態や嗜好に合わせた商品ニーズの推測） など具体例多数（12.資料(別添)参照）

価値判断

- 1〜2. 高齢化社会の中で人間関係が凝り固まると、なかなかそれをほぐすことができず固定化してしまうことがある。農村社会学で、高齢化した地域がどのように新たなつながりを構築するかを論じるときによく語られる論点である。そうした中、「ネットワーク理論」の考え方を応用し、「少しだけ離れた地域や年齢層」のつながりが生まれることで解きほぐせるのではないかとされている。今回、落合氏が程よい距離の参加メンバーとして、良い効果が生まれた予想外の事例として特筆すべきものである。地域外の人が地域の健康づくりに程よくつながる事例として価値のあるエピソードとなった。
3. また、「ともに号」の急な故障についても、地域住民のニーズ把握の仕方についても考えさせられる出来事であった。基本的には地域住民のみなさんはとても素朴で対面で接することにより多くのことを話してくれるが、本音をなかなか聞きづらい面もある。技術的トラブルでたまたま分かったことではあったが、真正面からだけでなく、様々な側面からニーズ把握をしていくことの重要性に気付かされる出来事であった。

4. 移動販売の「ちょっとしたノウハウ」については、着実に回数を重ねることで高度にノウハウが蓄積されていることがわかり、予想外の変化が起きていることが分かった。当初はアウトプット 2-1-3（移動販売と生活実態把握）において見えてきた利用者のニーズ 10 分類を整理するためのヒアリングの予定であったが、移動販売スタッフが思いもよらぬ話題で盛り上がった。本事業の期間中に予想外のノウハウが日々着実に現場で培われていることに気付かされた。

他の団体による同様の手法による取り組みは波及しそうか

特定した事実

「食で健康づくり」といったコンセプトで支援を手掛ける団体は全国に数多くある。フレイル予防や健康体操プログラムに取り組む団体も多いし、移動販売による買い物支援を手掛ける団体も数多く存在する。今回の事業を通じて、異なる分野の専門職が連携することで、これまではリーチすることのできなかった潜在的フレイル層にたどり着き、自律的な活動にまで後押しすることができた。ニーズを把握して支援が必要な人とつながっていく作業を行う中で、たまたま浮かび上がってきた「活動意欲のある」方が、別のチームメンバーにより自律的な活動へ受け渡しをすることもできた。前者のメンバーも継続してその方の商品開発作業を部分的に支援している。

具体例（エピソードなど）

Hさんの事例（三新塔・70代男性）：現役時代に数多く特許を取得したが、組織の力学で悔しい思いをした。地域資源を活かし、高齢者の便秘解消を目的とした商品開発。機器も自ら製作し、データをとったりモニター調査をしたり心血を注いだ。成分を使った料理が高齢者に好評で、地域の住民同士が食を通じて交流する場となった。当初、佐々木代表がインタビューを進めつつ、チラシ作成やパッケージデザイン・営業活動などを落合（運営委員）が引き受けて進める体制で現在も進行中。

価値判断

国内には多種多様な支援機関や専門家が存在している。本事業で主なテーマとして取り扱った医療福祉分野以外にも、農業、商工業など各分野も同様である。情報化が進んだ社会の中で、各種支援の枠組みは以前より遥かに整備されていると感じる。その一方で、どの分野にも「どんなに頑張っても行き届かない支援」といった問題は存在する。

そうした中、分野の異なる専門家同士が通常は取り扱えないようなテーマを共同作業によって、把握から生きがいづくり活動へのお誘い・自律的な活動まで後押しできたのは他に参考になる非常に大きな事例であったと言える。ニーズを把握して支援が必要な人とつながっていく作業が得意な人（団体）と、自律的な活動への後押しが得意な人（団体）は別々であって良いと思うし、それぞれが得意な領域を發揮できれば良いと考える。専門分野が細分化され過ぎてタコソボ化しているという指摘もある中、新たな手法のあり方として波及することができるのではないか。

7-3. 出口戦略・事業の持続化に向けた戦略の成果

A:助成期間中の出口戦略・事業の持続化に向けた戦略の達成状況

①出口戦略概要

「あそびばキッチン」の活動を持続可能な形で続けるためには、地域とのつながりを深め、収益化の可能性を模索しながら支援体制を強化していく必要がある。まず、「食」をテーマにした活動を地域住民と共に広げ、定期的なイベントや活動を通じて地域内での定着を図ることを引き続き取り組む。

その上で、定年退職後のキャリア支援プログラムを「食」をキーワードに開発し、特に男性層に向けて新たな生きがいを提供するような取り組みを続けていく。「人生 80 年時代」の生きがいづくりが叫ばれる中、定年退職後のキャリア支援が課題とされているが、画期的なプログラムが周囲を見渡しても見つからない。この層にターゲットを絞った支援プログラムを「食」をキーワードに作り、独自の立ち位置を確立していく。

次年度からいきなり収益的な活動を行うのは難しいことから、「あそびばキッチン」を地域における教育的な役割を持つ活動として位置づけ、次世代への貢献も視野に入れたプログラム展開を検討する。地元高校の存続プロジェクトで寄宿舎を立ち上げる計画がある。国体もあるのでそこにめがけてスポーツ学生の誘致を計画している。そこで、栄養士として関わりつつ、あそびばキッチンの活動を浸透させる活動を続ける計画である。元気会などの場作りの支援については、ボランティアになると思うが月 1 回程度なので、継続していけると考えている。地域文化の継承や食育を促進する活動を強化し、地域の子供たちや若者が参加できる場を提供し、地域への浸透を深めていく動きを継続したい。

②出口戦略の達成状況

本事業は、「食を通じて人とつながる」「生きがいを発見する」という理念のもと、多くの成果を上げ、地域社会における高齢者支援の新たな形を示すことができた。

まず、継続的に関与してきた T さんの取り組みは新たな居場所づくりの動きとなり、地域づくりの一環として大きな意義を持っている。T さんは、木次町にて自宅を喫茶店として開業予定であり、地域住民とのつながりを深める場としての活用を目指している。この事業は、認知症相談や地域イベントなどを通じて、地域の生きがいづくりに貢献することが期待されている。また、T さんの両親も事業に関与し、高齢者自身の生きがいづくりの面でも大きな役割を果たしている。あそびばの理念との共通点が多く、今後も協力体制を強化し、事業を広げていくことが期待される。

定年退職後の生きがいづくりとして、商品開発支援を行ったことは本事業の大きな成果である。特に、H さん（三新塔・70 代男性）の商品開発においては、シニア世代がチャレンジし続ける支援を行うことができ、農村社会学的にも良好な事例を示すことができた。このような支援は、今後も定年退職後の高齢者が新たな役割を見つけ、地域社会に貢献する手助けとなるモデルとして発信できるものになった。

次に、奥出雲町を中心に展開していた移動販売事業が、隣接する雲南市のエリアに拡大されたことも大きな成果となった。雲南市も中心部は同様のサービスが実施されているが、奥出雲町に隣接するエリアは中心部から遠い。こうしたエリアに本事業をきっかけに入ることができたのは特筆すべき点である。本事業を通じて移動販売の回数を重ね、10 分類のニーズ分類が取りまとめられノウハウが整理された側面も大きく、そうした点も貢献したと考えられる。

さらに移動販売を通じて定期的に「あおぞらサロン」を開催し続けた温泉キャンパスでも動きが生まれた。温泉キャンパスで開催された新米イベントでは、地域の高齢者が活躍する場を得ることができた。このイベントでは、H さんが提供したごぼう茶と A さんの味噌を使ったパウンドケーキが振る舞われ、参加者同士の交流が促進された。特に、「食で人とまちをつなげる」という当初の構想が実現され、複数の人々が協力して新たな場を作り上げた。このイベントは、高齢者が地域社会で積極的に活躍する場を提供し、食を通じたコミュニケーションが地域の活性化に寄与する重要な事例となった。

最後に、管理栄養士としての経験を活かし、高齢者の生きがいづくりに貢献できたことは、非常に画期的な成果であった。地域資源を活かした商品開発を通じて、栄養指導の立場から高齢者支援が可能であることが示された。この活動は今後も地域にお

ける栄養指導の重要性を再認識させるものであり、地域全体の健康づくりに大きく貢献することが期待される。本事業を通じて地域の高齢者支援における新しいモデルが構築され、今後の活動においてもその成果を活かし広げていくことが求められる。

③出口戦略の実現に最も影響を与えた要因

本事業の出口戦略の実現に最も大きな影響を与えた要因は、代表の佐々木が各拠点での活動を通じて、地区の垣根を超えた料理のコラボレーションを推進し、従来は抽象的で捉えにくかった人と人とのつながりを、具体的なメニューという形で可視化する仕組みを構築した点にある。

あそびばキッチンでは管理栄養士である佐々木が「物理的な栄養」と同時に「心の栄養」を重視して活動してきたこと、そして「きっかけをつくるプレイヤー」という立ち位置で、食を共通のキーワードとして地域全体を結びつける活動を展開してきた。たとえば、あそびば食堂においては参加人数こそ少なかったが、美味しい健康総菜を味わいながら参加者同士が和やかに会話を交わす場面が見受けられ、これにより地域内での交流の輪が着実に広がっていった。こうした取り組みは、温泉地区や三新塔地区での各種アウトリーチ活動、移動販売事業、さらには温泉キャンパスやおぞらサロンといった連携事業と相乗効果を生み出し、地域住民の生きがいや高齢者支援に直結する新たな価値を創出した。

佐々木自身は本事業実施初期段階では自身の立ち位置に悩む時期が続いていたが、対話を重ねる中で特に落合（運営委員）の助言をもとに言語化されていき、活動が加速することとなった。そうした中で推進したメニュー化の取り組みは、人と人との繋がりという無形の資産を視覚的かつ具体的に示すことで、地域の多様な活動を一体化し、出口戦略の達成に向けた基盤を確立する上で極めて重要な役割を果たしたといえる。

B:助成終了後の事業の実施見込みについて

①助成終了後の事業規模の見込み：

助成開始前と比べ、

縮小 ほぼ同程度 拡大

助成時と比べ、

縮小 ほぼ同程度 拡大

②助成終了後の活動内容の見込み：

・助成時と比べ、活動内容は変更しているか。

助成終了後の活動内容については、助成期間中に実施されていた活動の核となる「食」を通じた地域交流や健康支援のコンセプトは維持しつつ、各主体の状況や地域のニーズに合わせた変更・発展が見込まれる。個々の活動においては、代表の佐々木が新たに着手する事業にあそびばモデルを取り入れ、雲南市内の大東地区において、従来の事業内容を土台としながらも新たな試みを展開する予定である。

具体的には、同地区においては、県内外から学生を広く受け入れ、高校の維持継続を図る「魅力化プロジェクト」がスタートすることに伴い、食をキーワードとした高校生への生活支援や、地域学習、地域資源を活かした企画提案・加工品開発など、学校単体では取り組みづらい活動への支援が強化される見通しである。また、事業期間中に連携を深めた協働団体（くまっこ喫茶、マルシェリーズ健康カフェ等）との連携は継続し、各団体がそれぞれの活動を発展させることで、地域全体の取り組みとしての広がりが期待される。

一方、コンソーシアム体としては、全体としての連携は年間1回程度の定例イベントを軸に維持・拡充される見込みである。頻度や規模は助成時と比べ縮小する可能性があるものの、各団体がそれぞれの分野で活動を続け、地域に根付いた食や健康、そして生きがい創出の取り組みが今後も持続可能な形で継承される体制が整いつつある。総合的に判断すると、助成終了後も現在と同規模、あるいはそれに迫る形で、個々の事業が独自の発展を遂げながら、コンソーシアムとしての連携イベントを通じて、地域全体における「食×健康」「食×生きがい」に関する活動が継続される見通しである。

・活動内容を変更した理由は何か（例：課題やニーズに変化が生じた、運営体制が整わないため）

活動内容を変更した理由は、助成期間中に実施された各種イベントや調査活動を通じて、地域における「食×健康」や「食×生きがい」に関する具体的なニーズが着実に把握できるようになった点にある。これにより、従来の一律的な活動から、地域の実情に即したより具体的な支援・連携モデルへの転換が求められると認識された。さらに、代表の佐々木が広域で各拠点の活動を媒介し、地区を超えた料理のコラボレーションや、人と人との繋がりを具体的なメニューとして可視化する取り組みを進めた結果、個々の協働団体が独自に継続・発展する動きが顕著となった。

たとえば、島根リハビリテーション学院の学生フィールドワークなど、本事業期間途中から開始された新たなプロジェクトは、地域現場からの生の声を反映したものであり、これが活動内容の刷新を促す一因となった。また、佐々木自身が様々な試行錯誤を経て自身の立ち位置を明確にしたことにより、従来は抽象的で捉えにくかった人と人との繋がりが、具体的な事例やメニューとして示されるようになった。

これらの背景から、助成期間中に蓄積された知見とフィードバックを踏まえ、事業はより実践的かつ具体的な連携体制を構築するために、活動内容が前向きに変化してきた。

③資金調達状況

・資金はどのような調達ができているか。資金を調達できた最も大きな要因は何であったか。

資金調達で最も努力した点は移動販売を通じた収益である。移動販売の定期運行や運営形態の工夫により販売収益を確保する工夫を常時行った。セントラルキッチンを導入を検討したが、固定の拠点を作らない等経費を抑えるための工夫を行った。

④人材確保状況

・活動を継続していく上で、人材は確保できているか。人材を確保できた最も大きな要因は何であったか。

現時点では各メンバーがゆるやかな連合体として機能しているため、活動自体の実施に大きな支障は生じていない。しかし、事務局を担う人材や、NPO法人ともによる移動販売体制については、いずれも不足気味であるが、これまでの活動によりなんとかカバーできている状況である。なお、今後活動が年数を重ねるにつれて、事務局人材が再び必要となる可能性は否めず、その点は今後の課題として注視する必要がある。

一方で、人材が確保できた最も大きな要因は、10年弱にわたって継続して取り組んできた三沢地区での地域づくりの基盤が既に整っていたこと、及びフリーランスの専門職同士が互いにカバーし合う体制が構築されていたことである。これらの背景により、地域の多様なニーズに応じた柔軟な対応が可能となり、各活動分野で必要な人材が確保され、活動全体の安定的な継続に寄与したと言える。

7-4. 事業の効率性

事業実施のため投入された資金・人材・機材は妥当だったか

特定した事実

事業予算はハード整備には殆ど使わず、移動販売、栄養講座、生きがづくり活動支援、場作りや商品開発支援、イベント開催、ニーズ調査及び分析といった形で純粋に食を通じた健康づくりの支援活動の動きに予算が投入された。ほぼ有効に活用されたと考えられる。外部との活動記録は342件のぼり、これらに事務作業や内部打ち合わせ等の動きは含まれていない。約1000日の助成事業期間を通して、3日に1度は外部に対して何らかのアクションを起こしていることになる。

とはいえ全てが理想の動きだったわけではなく、例えば栄養指導の活動などは、あまり効果が感じられなかった。つながり作りや本事業の周知、フレイル予備軍の発掘といった点では意義はあったが、もう少しやり方があったと感じている。

具体例（エピソードなど）

移動販売では、地域の高齢者が食を通じて社会とつながり、孤立感を軽減する場を提供された。また、栄養講座においては、一定の成果があったものの、期待したほどの効果を上げられなかった。特に、栄養指導の活動については、地域住民の関心を引きつけることができたものの、実際の参加者の定着や、指導内容の実践には限界が見られた。この点については、もう少し工夫が必要であると感じられる。イベント開催においても、参加者数が目標を超えたことや、地域の他団体との連携が進んだ点が挙げられる。

例えば、「温泉キャンパスでの新米イベント」では、地域住民や参加者が一堂に会し、食を通じたコミュニケーションが生まれた。このようなイベントは、地域のつながりを深めるとともに、事業の認知度向上にも寄与した。

2年間の事業を通じて本人がどうやって対象者に寄り添えるようになったのか。参加者を通じてどのようにつながりを広げていったのか。人・地域・食をつなぐ役（コーディネーター）として自分たちが何を担えるか、深く考えることができたようになった過程があった。奥出雲で実践しているノウハウを、雲南へ持ち込むことができたプロセスなどもあった。

価値判断

総じて、事業実施のために投入された資金、機材、人材は非常に妥当であり、事業の目的を達成するために適切に活用されたと評価できる。予算は効率的に使われ、特に「食を通じた健康づくり」というテーマに沿った活動に焦点を当てた支出が行われたため、事業の成果に大きく寄与したといえる。

ただし、栄養指導の活動については期待した効果が得られなかった点が課題として残る。この点に関しては、今後の改善点として、より効果的なアプローチ方法やターゲット層の見直しが求められる。それでも、事業全体としては外部との連携が積極的に進められ、地域のニーズに応じた活動が着実に実施されたことから、投入されたリソースは非常に妥当であったと評価される。

8. 成功要因・課題

<p>特に社会課題解決に貢献したアウトカム</p>	<p>【アウトカム3】 高齢者が、身体が虚弱化しても、生きがいや楽しみを感じながら地域で安心して暮らせる人が増えている状態</p> <p>【要因】 このアウトカムは、地域高齢者の社会的孤立を減少させ、生きがいを見つけてもらうことに大きく貢献した。背景として、本事業の委員である佐々木、吉川、落合という個性的な3者の連携が大きな役割を果たし、佐々木（栄養指導の立場でチャレンジ支援）、吉川（圧倒的な信頼と移動販売ネットワーク）、落合（社会福祉士の立場で人々にとにかく楽しい雰囲気を提供）、といった要素が重なり合うことで、人々を引き寄せた。この協力により、単に「健康づくり」を促進するだけでなく、参加者が楽しみながら健康に関心を持つ機会が増えた。中山間地域においてより多くの地域住民に「新しい形の生活の楽しみ、活動の楽しみ」を提供することで、地域の様々な団体と連携も呼び寄せ、これまでにない広がりを作ることができたと考えられる。</p> <p>さらに、地域の高齢者の集まりや健康サロンでは、堅苦しい健康講座ではなく、楽しみながら積極的に参加できる場を提供したことが、参加者の定着を促進した。時には個性的な3者の「組み合わせ」の力も発揮され、予期しない形で、新たなシニア世代のチャレンジ支援の機会が創出されたことも、事業の大きな成果である。特に中山間地域において、多くの地域住民に「新しい形の生活の楽しみ、活動の楽しみ」を提供できた点が、社会課題解決に貢献したといえる。</p>
<p>特に達成が困難であったアウトカム</p>	<p>【アウトカム1】 高齢者支援のアウトリーチモデルの創出</p> <p>【課題】 本事業が目指した高齢者支援のアウトリーチモデルは、十分な進展があったものの、完全に確立されたとは言えない部分も残った。「多分野の個性的なメンバーから構成される活動主体が広域で活動することでこれまでにない支援が生まれる」と評価してしまうことも可能だが、モデルと位置づけるには少々難がある。個性的な3者の活動によって多くの人と接点を持つことができたが、他地域で同様のモデルを展開するには、まだ未完成の要素が多いと感じられる。例えば、栄養指導の活動に関しては効果が限定的であり、より広範囲に展開するための方法論が必要である。</p> <p>また、栄養相談の際に、CNCの紹介を受けた対象者から断られた事例が示すように、アウトリーチの手法には改善の余地がある。いきなり自宅に訪問することが高いハードルとなることが分かり、次回からはより柔軟で間接的な接点の作り方が求められる。この点については、若くて元気な多分野の専門集団による活動は、新しい支援の形を生み出す可能性があることを示すものの、アウトリーチモデルとして広域に展開するには、さらなる経験と工夫が必要である。</p> <p>例えば、より地域に根ざした連携を深め、外部のリソースを効果的に活用する方法を模索することが、今後の課題である。本事業を通じて佐々木（代表）自身の成長として、「人・地域・食をつなぐコーディネーター」としての立ち位置を確立することはできた。これをステップアップとして、さらにアウトリーチの手法を洗練させていくことが求められる。</p>

9. 結論

9-1. 社会的インパクト評価の構成要素別自己評価

	多くの改善の余地がある	想定した水準までに少し改善点がある	想定した水準にあるが一部改善点がある	想定した水準にある	想定した水準以上にある
(1) 課題やニーズの適切性				○	
(2) 事業設計の整合性			○		
(3) 実施状況の適切性					○
(4) 事業成果の達成度			○		

9-2. 自己評価の判断根拠について

(1) 課題やニーズの適切性

社会的背景や地域特性に応じた課題設定がされており、高齢化社会の進行や生活不活発病の問題を的確に捉えたと考えられる。特に、食の見守りネットワークを通じて高齢者の社会的孤立や虚弱化を防ぐというアプローチは、地域での高齢者支援に対するニーズを的確に反映していると言える。地域の高齢者の多くがフレイル予備軍であり、その支援が急務であるという点でも、事業が地域の実情に合致していることが確認できた。移動販売や地域イベントの開催といった取り組みを通じて、対象者が実際に支援を受ける場を提供しており、ニーズに応じた活動が展開されている点も評価できる。

(2) 事業設計の整合性

広域の市町村にまたがる、異なる専門性を持つ団体や個人が集まるコンソーシアム形式で進められ、対話を重ね、修正を加えながら時間をかけて設計された。この点は高く評価できる。一方で、事業設計には改善点があることも指摘されている。特に、地元の専門学校である「島根リハビリテーション学院」を当初からもっと枠組みとして組み込むべきだったという意見があった。とくに作業療法学科は地域住民の活動意欲向上について研究する専門スタッフも在籍しており、栄養学も一部カバー範囲であることから相性が良い。本事業の中で特に移動販売の活動において、同学院の学生がフィールドワークとして同行取材をする取り組みが実施された。学生が元気に歩き回ることによって地域住民の関心やニーズを直接把握し、栄養に関する情報提供がしやすくなったというできごともあった。こうした反省点はあるものの、異なるバックグラウンドを持つメンバーが協力し合い、事業の方向性を共有し、具体的な施策を実行に移すための基盤が作られたことは、事業の柔軟性と実行力を高める要因となった。

(3) 実施状況の適切性

短期アウトカムはおおむね達成しており、全体としては事業実施のために投入されたリソースは非常に妥当であり、効率的に活用されたと評価できる。外部との活動記録が342件に達し、約1000日の助成事業期間を通じて3日に1度は何らかのアクションが起こされていたことから、事業が活発に実施されていたことが伺える。これは、事業がターゲットとなる地域住民や他団体と積極的に連携し、活動を行っており、事業の効率性を示すものとして評価できる。

(4) 事業成果の達成度

事業の主要な成果として、異なる専門職が連携することによって、移動販売、栄養講座、イベント開催など、地域の高齢者が実際に利用するサービスが提供され、地域社会のつながりが深まった点は大きな成果である。特に移動販売を通じて高齢者の孤立感を軽減し、食事を通じて社会との接点を持たせることができた点は、地域支援の新しい形を示すものであった。

あそびばキッチンモデルについても、活動の中で「人々のつながりが生まれることが期待されている」という目標が一定程度実現されており、3年間の取り組みを通じて到達した成果は明確に示されている。しかし、参加者が集まりにくいという課題や、活動の持続性等、まだ解決されていない部分が多く残っている。特に高齢者層やフレイル予備軍へのリーチが難しいという点は、今後さらに改善していく必要がある。事業の目標であった地域での関係性の構築と支援については、個別の問題に対応する場が提供され、地域全体での協力体制が築かれた。しかし、医療関係者との連携強化やアウトリーチ手法の改善については、まだ手探りの状態であり、これらの課題に対する対応を今後強化していくことが求められる。

総じて、事業は一定の成功を収め、想定された水準に到達しているが、今後の展開においては、地域住民との接点をさらに広げ、活動の持続可能性を高めるために、細かな調整や追加的な支援が必要であると考えられる。また、地域での活動が広がり、他団体や個人との連携が深まることで、今後の事業がより効果的に展開されることが期待される。

10. 本事業で取り扱った活動を発展させるための提言

「別の地域で立ち上げるために必要な要素とは何か？」という視点で、運営委員で議論し以下のように取りまとめた。

1. 肩書にとらわれない活動に取り組む勇氣

地域での支援活動において、肩書に囚われることなく、柔軟な対応をする気概が不可欠である。例えば、移動販売や買い物支援サービスを提供する際、管理栄養士や社会福祉士といった専門職の枠組みに限らず、地域住民の生活実態を深く理解し、必要に応じて自分の立場でできる支援を考える姿勢が求められる。超高齢化社会においては、単に専門職としての役割に留まらず、地域全体を支えるための活動が必要であり、そうした活動に対する柔軟で果敢なアプローチが、取り組みの成功に繋がる。

2. 地域づくり団体との連携の重要性

地域づくり団体、例えば「NPO 法人ともに」のような団体があることが地域活動を進める上で大きな力となる。地域には「何かやりたい」という意欲を持つ人々が多く存在するが、彼らと出会い、支援し、共に活動を進める力が重要である。地域のニーズを的確に把握し、それに応じたサービスを提供するためには、こうした団体との連携を強化し、地域の力を最大限に引き出すことが求められる。

3. フリーランスの専門職の存在

フリーランスの管理栄養士や専門職が地域活動に関与することの重要性が高い。自由な立場で地域活動に参加できることで、より柔軟に地域のニーズに対応できる。例えば、管理栄養士が地域の健康づくりに積極的に関与することができ、個別の訪問や相談に応じることが可能になる。公的機関に所属する場合、地域全体の健康増進を目指す活動が主となり、個別対応が難しくなることがあるが、フリーランスの専門職がいることで、その壁を越えた活動が実現できる。

4. 異分野の専門職の重要性

健康づくりや支援活動には、社会福祉士やデザイナー、アーティストといった異分野の専門職が関わるのが非常に重要である。例えば、社会福祉士が健康体操や生活支援の視点で地域に貢献すること、デザイナーやアーティストが活動に独自の視点を提供することによって、地域活動がより多角的に、かつ魅力的に進められるようになる。こうした異なるバックグラウンドを持つ専門家の存在は、地域活動を豊かにし、広がりを持たせることに貢献する。

5. 「地域丸ごと、食と健康づくり」の発想

地域での活動において、食と健康づくりを一体的に考える発想が大切である。地域資源や社会資源を積極的に活用し、分野を問わずに繋がる力が求められる。これには、地域の課題を面白おかしく取り組む度量が必要であり、地域住民と共に活動を進めることで、地域全体の課題解決に貢献することができる。柔軟で前向きな姿勢を持ちながら、地域資源を活用し、地域を支える力となる活動を展開していくことが求められる。

以上の要素が整うことで、地域に根ざした持続可能な支援活動を立ち上げることができると考える。

11. 事業からの学び・知見・教訓

まず、異なる専門性を持つメンバーの連携の重要性が改めて認識された。事業を進める中で、アウトリーチ支援の難しさを実感する場面が多々あったが、異なる専門的背景を持つメンバーの協力により、従来の支援体系が抱える課題に対処する新たな方法が見えてきた。特に、近年では支援制度や枠組みが成熟し、各分野の組織が縦割りになっていることで、本当に困っている人々のニーズが見えにくくなっている現状がある。このような状況下で、異なる専門性を持つメンバーが一堂に会し、柔軟な連携を行うことが、課題を解きほぐす大きな力となった。とはいえ、これが「なんとなく分かった」という現状にとどまっているのも事実であり、今後はさらにこの連携を深め、実際の支援活動にどう反映させるかをもっと考え、具体化していく必要がある。

次に、自分を主語に語ることの重要性が浮き彫りになった。事業が進むにつれて、メンバーは「こうなったほうがいいと思うから」といった他者主語の提案から「自分はこうしたい」という自己主張に変わっていった。この変化が、活動に対する真剣さや参加者の意欲を引き出し、周囲の反応にも良い影響を与えたと感じられる。自分の意見を主体的に伝えることで、周囲との連携がよりスムーズになり、最終的に事業の方向性がより具体的かつ実行可能なものとなった。この教訓を今後の活動にも活かし、メンバーや地域住民が自身の意志を主語として語り、行動することで、活動が一層推進されることが期待される。

これらの学びを踏まえ、今後の活動においては、異なる専門性を持つメンバー間の協力をさらに深化させ、各自が主体的に活動に関与する体制を構築することが重要である。また、支援が必要な人々に対して、柔軟で多角的なアプローチを提供できる体制を作り上げていくことが求められる。

12. 資料（別添）

○移動販売の現場で培われた「ちょっとしたノウハウ・8分類 25項目」

(7-2:「事業の実施によって当初想定した目標や中間的な成果以外の変化」参照)

ヒアリング日：2024年12月23日 対象者：移動販売スタッフ3名（景山、落合（友）、落合（由））

手法	工夫した内容	起きた変化、工夫によって拾い上げられるニーズ
声がけ、話し方	趣味等、身近なものを見つけ話題に出す	難しい花を育てられているのを見て話題にしてみたら、明らかに気持ちが近くなる。「趣味でやってますよ」と謙遜されるけど、「気づいてくれた」という反応が明らかに分かる。
	必殺ワードを考えておく	「大して買わないのに済まないねえ」と申し訳無さそうに話す方も多い。そんな時には「あなたの笑顔を見に来てますけん」と冗談で返す（大抵は笑ってもらえるがウケないことも）。

	共通の話題探しができるワードを投げる	「門名（かどな、つまり屋号）」は役に立つ。身元がわかると一気に心を開いてくれる、いわば「天下の家宝」。「あ、あなた〇〇先生の孫さんかいね」といった話題が広がっていく。最初のつかみで、共通の話題探しをしていく。
	よき話相手となれる会話を心がける	基本的にはみなさん話し相手を探している。「今日あんたが初めて話す人だわ」「よっこいしょ以外の単語を初めて発した」といった反応が見られる。
話題の工夫	ちょっとした有名人を引き合いに出す	三沢地区外だと、「落合（運営委員）がお騒がせしてますー」と切り出すと大体笑いになる。奥出雲ソングのこと、落合氏が手掛けている体操講座のこと等知っている人が多い。お世話になっておりますっていうのが共通の話題になる。
	詳しい方に話し方のコツを学ぶ	みざわ見守り応援隊の方と2人組で回る際は、会計役に徹して話し方のコツを学んだりする。歴史とか人間関係の引き出しが多い。
	不安な気持ちに寄り添う話題を選ぶ	台風などがあると、不安な気持ちになる。これから荒れるかもしれないね、など言うことで、不満や不安が和らぐ。
	話の切り上げ方の工夫	次の訪問地への時間が迫っている際の切り上げ方は難しい。「寒いので中入って!」「アイスがとけちゃうので」などなど話の振り方を考えている。行く意思を告げればごめんね忙しいねと分かってくれる。
陳列や提案の工夫	利用者の生活形態や嗜好に合わせた商品ニーズの推測	生活の背景を見つつ、甘いものが好き、自分である程度料理する人、などその人にハマる商品を推測していく。購買につながったり、新たな購買パターンが生まれると嬉しい。（販売員としては「ヨッシャー!!」）
	商品準備の工夫	出発時の商品積み込みの際の、今日何う地域性とか、行き先の誰々の顔を思い浮かべる。
	一般的なニーズとは外れた商品の品揃え	あまり慣れていない販売員だからこそできる品揃えなどもあり、「いつもと違う商品だね」と喜んでもらえることがある。必ずしも全員が地域を熟知した販売員でなくても良い。初心者の販売員やたまにしか訪問しない販売員も、その良さを出していく。
	積極的な提案だけでなく、さりげないアプローチも混ぜる	耳が不自由な方（三沢・80代女性）、身振り手振りで話される方で、いらんものは投げて返されるくらい分かりやすい人。さりげなく置いとくと2つ買われたりする。
配りものの工夫	飴ちゃんどうぞ	暑い日には「塩飴どうぞ」なんて渡してみる。それが何故かご近所に渡り、近くの別のお客さんから「こないだ近くから塩飴もらったけどないかな」といった購買につながることもある。
	季節のちょっとした配りもの	年末年始に帰省がなく、一人の人にも提供できるものがあつたらいい（お正月セットのような?）。他にもバレンタインのおまけ、クリスマス袋詰め、色々考えられる。（ただ、あげるのは簡単だが、出張件数も増えてきている。よそではもらっているのに、自分ではもらってないって話になるのも難しい。）

周知の工夫	チラシに手書きメッセージ	チラシに今週のおすすめと手書きメッセージなんかがあると良いかも。寒いですね、次回何日に来ます、これが売れてます、などなど。忙しくないときに検討したい。
信頼構築の工夫	何回も訪問を重ね、生活の背景などを見るようにする	そもそも要望を気軽に伝えたい（が遠慮してしまう）。当初は「わざわざ来てくれて申し訳ないね」というごちないやりとりだったのが、だんだんほどけていき、要望を口に出してくれるようになった。
	地域性の違いを知っておく	冗談が歓迎される地区と通じない地区がある。ふざけていると、あ、滑った！と凹むことがある。あるいはストレートに言われすぎて落ち込むことがある。「これも乗っけとらんかね」と言われても実際は「今日はないのね」程度の意味だったりする。気にしてたらしょうがない！
観察方法の工夫	買い物の本当の目的は何かを観察する・聞くようにする	買い物なんかする人ではなく、「おい茶だせ」というようなタイプだった男性（三沢地区・80代）。奥さんが亡くなって生きる希望なさげだったが、今では買い物が日常の習慣になり、来る時間20分前なのに玄関前で雨なのに待ってることもある。
	突飛な行動？に注目する	販売員の気を引くためか、突飛な行動をされる方がいる。来るのに合わせて「シャワーしてたわ！ごめん羽織ったばかりで」といった行動が見られる。確信犯的に「ちょっと裏で作業してたわー」とギリギリで出てこられたり、逆に「さっき孫からもらってー」とおそらく30分は抱えてたであろうものを見せてくれたりする。また、マニキュアしてた？久々に化粧されてた？といった出来事に気づくことがある。移動販売が日常生活の刺激になっていれば良いし、そういうのが何件か続けば変わるのかもしれない。
	買い物対象者を聞く・誰かを観察する	自家消費目的ではなく、孫のために・お客さんのためにといった、他人を喜ばせる目的の買い物ニーズがある。そうした話を楽しそうにしてくれる方が多くなった。
	対象者の話し方を観察する	独居の高齢者は会話の数が少なくなり、口周りがどうしても衰えてしまう。何度も訪ねていると、回復するわけではないけど、少し話が達者になる。
	行動の僅かな変化に注目する	Kさん（80代男性・寝たきり）ともに号が来ると手をついてでも出てくる。パワーを感じるし、服もちゃんとされる。メリハリと刺激が出るのか。週に一回でも機会があることが大事。
訪問時間帯、場所の	訪問時間の工夫	早く伺う分には問題ないが、遅れるときは心配される。ちょっと遅れて、チクチク言われたりもある。ギリギリ出なければいけない時間を予め頭に入れておく。最後の訪問なら問題ないので、長そうな人は午前午後の最後にするとか訪問の組み方も工夫できる。
	戸別訪問の際の工夫	一対一だとお客さんも焦る。ゆっくり選んでくださいねと言っても、申し訳ないという気持ち→見るだけでいいですけどん、とにかくカゴ出し→見ると「やっぱり欲しい」というのがある。

<p>団地や集会所等への訪問の強みを活かす</p>	<p>複数名が来られる場所は比較的やりやすい。日によって出る人、出ない人がいても双方気にしなくて良いので気持ちが楽。少額の買い物でも気軽にしてもらえる。自分が行っていいのかと遠慮がちな人も、あんた来なさいよ、となることがある。一対一だとお客さんも焦るが、複数のお客さんで立ち話しながら「あんたこれがおいしかったよ」などと話してくれると商品を選ぶのにも余裕が出る。</p>
---------------------------	---

○本事業期間中に運営委員が取り組んだ「対象者ニーズ調査」

全 255 項目にわたる活動実績のメモとして、随時記録を行っていった。(スクリーンショットのみで、全体は非公開)

日付	担当	関係者	対象者	お会いした経緯、イベント等	会話トピック	想定されるニーズ(困りごと)	今後の提案	起きている変化
24年11月25日	佐々木	関係者	関係者	視察	<p>■さん「地域の移動販売では、各家庭の軒先に車を入れてお得意様の生活の実態や困っている事をキヤッチすることを心がけている。高校生にも、地域とのつながりがあってほしいので、移動販売などの活動に参加してもらえる機会を作れるといいと思う。」</p>	生徒数の減少で、地域外からの高校生の受け入れを開始予定。■さんを提供することになった。高校生の食事を考えなければならぬので、地域の人々の協力が必要。	退職された方や、高齢で元気な人に関わってもらえる環境を作りたい。	あそびばの初期の活動に■さんお世話になった。移動販売を営んでおられる方。その時のつながりが生きている。
24年11月25日	佐々木	関係者	雲南市教育委員会	視察	<p>■さん「学校・地域・行政が協力して■さんの運営を成功させたい。」</p>			
24年11月26日	佐々木	くまっこ喫茶	■さん	くまっこ喫茶	<p>くまっこ喫茶の参加者のみなさんの芸技器(「岸壁の母」の一人芝居・横笛演奏等)を聴いて、故郷を大切に思う気持ちに共感し胸が熱くなった。</p>			あそびばの茶話会で社会福祉士の■さんにお世話になっていて、久美さんからもお邪魔している。ちょうど■さんもお連れすることができた。いい感じの協力関係になっている。
24年11月26日	佐々木	くまっこ喫茶	■さん	くまっこ喫茶終了後のお茶会	<p>ゆったり館の■さんにもごぼう茶の紹介に伺った。ゆったり館にごぼう茶のお徳茶(炊き込みご飯)などが置いてもらえるといいな〜。木次コトリエットの「菜の花」さんも新さんに紹介して頂いたので、ごぼう茶の紹介に行きたい。</p>		<p>技術者として手柄を取られたり大変なことがあったが、いかに今を前向きに生きてもらうかという思考の転換を促していきたい。</p>	<p>唱歌を歌った後で、地元の社長さんとの思い出話に、これまでは「技術者なんて惨めなものです」といった後ろ向きな話が多かったが、多様な方々との対話と交流を経て、「ふるさとを思う気持ち」にうまく昇華されていっている。</p>
24年11月26日	佐々木	くまっこ喫茶	■さんのお母さん	くまっこ喫茶終了後のお茶会	<p>昔から喫茶店を開くのが夢だった。70代になっても夢が叶うとは、びっくり。CNCやあそびばの協力もあり、沢山の人が来ていただけてとても嬉しい。今、書いてあるコーヒーの入れ方講座に通い、本格的なコーヒーが入れられるよう頑張りたい。</p>	くまっこ喫茶が本格オープンした後も何らかの形でのお手伝い		お母さんまでも巻き込めるようになっていく。場作りをきっかけに、ちょっとした身近な人に活躍の場を提供できる動きが生まれている。

○本事業で作成・活用した「見える化シート」「生きがい発見シート」「つなげるシート」

①現状見える化シート

その人の食と交流に関する、種類/量/人/変化/価値観を見る化する

※メモする際は文章でなく、キーワード(単語)のみを記入でOK

たべる 食事 おやつ	だれと	家族・友達(仕事仲間)と
	どんなものを	ごはん、出てきたものは何でも食べる
	どのくらい	茶わん一杯/3食だが、昼は軽めに食べる
	大事にしていること	丸飲みしないように
	3年前と比べて	量がだいぶ減った。仕事辞めて半分くらいに
	自由欄	太らないよう気を付けている
のむ 水分 お茶 お酒	だれと	
	どんなものを	水、炭酸水
	どのくらい	缶ビールは一日1本
	大事にしていること	
	3年前と比べて	最近では外で飲む機会が減った
	自由欄	冬は焼酎湯割り
つくる 料理 野菜	だれと	妻と一緒に野菜を作っている
	どんなものを	お米、露地野菜中心
	どのくらい	家庭菜園程度
	大事にしていること	妻が楽しそうにしていること
	3年前と比べて	
	自由欄	
はなす 会話 交流	だれと	地域の人
	どんなことを	自治会長/ともに等/お助け隊など
	どのくらい	ほぼ毎日のように人と会う
	大事にしていること	
	3年前と比べて	仕事辞めて、爺さんの面倒をみながら
	自由欄	自治会のことは来年から息子に託す

②生きがい発見シート

その人の食と交流に関する、意欲・生きがいのキーワードを見る化する

※メモする際は文章でなく、キーワード(単語)のみを記入でOK

たべる × 意欲	大好きなもの/よく食べる	焼き魚、カレー
	よく食べに行く場所/お店	ともに食堂、サイクリングターミナル
	行ってみたいお店	食ったことない店は行ってみたい/回転ずしも行きたい
	だれと一緒に食べたい	お助け隊のメンバーや家族と食べに行きたい
	最高のシチュエーション	家族みんなで行って、食べてカラオケできたら最高
	自由欄	
のむ × 意欲	大好きなもの/よく飲む	炭酸水/ビール
	よく飲みに行くお店	
	行ってみたいお店	昔良く行っていたスナック「エルフ」
	だれと一緒に飲みたい	友達
	最高のシチュエーション	
	自由欄	
つくる × 意欲	よく作るもの	
	作るのが得意/好きなもの	変わったものを作るのが好き
	作ったものはどうしてる	親戚や友達に送る/マーケットにも出している
	作って嬉しかったこと	妻が作ったものを送って喜んでるから嬉しい
	最高のシチュエーション	作ったものを見せた時の反応でビックリしてるのを見る
	自由欄	
はなす × 意欲	誰と話すのが好き	
	どんな話をよくする	あたりさわりのない話/身体の状態の話など
	どんな話題の時間が楽しい	バカ話や互いの失敗談、懐かしい話など
	最近、だれと話してみたい	
	最高のシチュエーション	同級生と久しぶりに話してみたい
	自由欄	子どものコトなど聞きにくいことも多々ある

③「ひと」と「まち」をつなげるシート

この人の生きがいが生まれやすそうなアイデアを書き出し、つないだら動きだしそうな地域資源を見つける

※相性がよさそうなものに○、特によさそうなものに◎

たべる × アイデア	生きがいキーワード	家族・友人・カラオケ	→	交流系	地域サロン	地域交通	多世代交流	自由記入
	家族と一緒に出席してカラオケで楽しむ			企画系	食事会	イベント	お祭り	自由記入
				集まり系	趣味会	勉強会	体験会	自由記入
のむ × アイデア	生きがいキーワード	スナック・居酒屋	→	飲食系	飲食店	居酒屋	フードコート	自由記入
	友人と懐かしのスナックへ行く企画			買い物系	スーパー	個人商店	野菜市場	自由記入
				発信系	ケーブルTV	新聞/メディア	YouTube	自由記入
つくる × アイデア	生きがいキーワード	野菜づくり・妻・人にあげる・変わったもの	→	訪問系	移動販売車	民生委員	郵便局	自由記入
	妻の作った野菜を使って、地域の人がよくこぶ企画			支援系	コミュニティ アースカンパ ニー	NPO法人	企業/法人	自由記入
				地域系	地域運営団体	コミュニティ (公民館)	自治会	自由記入
はなす × アイデア	いきがいキーワード	同級生	→	保健系	保健師	栄養士	食のボランティア	自由記入
	地区内での同窓会の開催			福祉系	社会福祉協議会	地域包括 支援センター	福祉事務所	自由記入
				その他	家族	レンタル スペース	自由記入	自由記入

○活動写真等



くまっこ喫茶の様子



おんせんキャンパスの笹巻きイベント



あそびば食堂の様子



あおぞらサロンに合わせて開催した温泉地区定例会議



あおぞらサロンにて移動販売の出店



雲南市三新塔地区「にぎわい市」にイベント出店

温泉地区での移動販売の様子



三新塔「げんきかい」での弁当試食会 この日の受け持ち3名で男性のみで頑張って仕込んだ



報告会の様子



佐々木（代表）のレシピをみんなで試食（三新塔）



Hさん（三新塔・70代男性）の特産品開発チラシ